

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>2. 工事の計画の認可及び届出及び認可手続の範囲 (2) 工事計画に記載すべき設備及び機器等の範囲 工事計画に記載しなければならない事項は、規則第9条第2項又は第12条第2項で発電用原子炉施設の種別に応じて規則別表第2の中欄で定めるものとされており、規則別表第2の中欄において、設備ごとにさらに機器等の単位で記載要求事項を定めている。この規則別表第2に規定されている記載要求事項については、少なくとも技術基準規則への適合性を示す上で必要十分な内容が記載される必要があり、以下では、規則別表第1における設備及び機器等の規定も含めて、機器等の仕様に関する記載要求範囲と設備及び機器等の記載要求範囲に分けて示す。</p>	<p>2 設工認申請における仕様表の作成要領</p> <p>1. 目的 仕様を記載する設備について、記載の統一及び一貫性を図ることを目的として仕様表の作成要領を策定する。</p> <p>2. 具体的な仕様表の作成方法</p> <p>2.1 資料構成</p> <p>(1) 仕様表の資料構成は以下とする。</p> <p>a. 申請対象設備については、「使用済燃料の再処理の事業に関する規則」、「核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の廃棄物管理の事業に関する規則」及び「核燃料物質の加工の事業に関する規則」の「その他の主要な構造」に記載の施設区分と同じ順番に記載する。</p> <p>b. 仕様表記載対象設備は「申請範囲」※1により対象設備を明確化する。</p> <p>c. 仕様表は、1 設備につき1 件とし、複数の設備（系統）区分※2の機能を有する設備であっても仕様表は1 件とする。 ただし、A系/B系、第1/第2のように同一仕様の設備の場合は、仕様表を一つに纏めてもよい。</p> <p>※1：今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「申請範囲」に手続き対象外であることを記載する。 (例) ○○ポンプ（手続き対象外）</p> <p>※2：設備（系統）区分の記載について、設備名のみで対象が自明の場合は系統名を記載しなくても良い。 (以下、各章においても同様。)</p>	<p>2 工事計画認可申請における要目表の作成要領</p> <p>1. 目的 新規制基準対応設備のうち別表第二において設備別記載事項を記載する設備について、記載の統一及び一貫性を図ることを目的として要目表の作成要領を策定する。 なお、記載例については、別紙1に示す。</p> <p>2. 具体的な要目表の作成方法</p> <p>2.1 資料構成</p> <p>(1) 要目表の資料構成は以下とする。</p> <p>a. 申請対象設備については、別表第二の記載順に記載する。</p> <p>b. 要目表記載対象設備は「申請範囲」※1により対象設備を明確化する。</p> <p>c. 要目表は、1 設備につき1 件とし、複数の設備（系統）区分※2の機能を有する設備であっても要目表は1 件とする。</p> <p>※1：今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「申請範囲」に手続き対象外であることを記載する。 (例) ○○ポンプ（手続き対象外）</p> <p>※2：設備（系統）区分の記載について、設備名のみで対象が自明の場合は系統名を記載しなくても良い。 (以下、各章においても同様。)</p>	<p>・別表第二はないため、記載順を明確化。</p> <p>・仕様表の合理化のため、追記。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>2.2 仕様表の記載項目</p> <p>仕様表の記載項目については、技術基準要求に対してどのような設計仕様であるかを示す。また、以降に記載する内容を踏まえ、機器分類ごとの基本的な仕様表記載項目を添付-1に示す。</p> <p>(1) 仕様表へ記載する項目、内容</p> <p>a. 名称</p> <p>機器等を識別するため、機器等の名称を記載する。</p> <p>b. 種類（形式）</p> <p>機器等の種類を示すため、形状や機能より分類した種類を記載する。分類及び記載内容の例を以下に示す。</p> <p>(a) 円筒形容器の基本型式は、たて、横の置き方と円筒形の組合せとする。</p> <p>（記載例）たて置円筒形、横置円筒形</p> <p>(b) 伝熱管を有する熱交換器は、たて、横の置き方とU字管、直管等の管形状の組合せとする。</p> <p>（記載例）たて置直管式、横置U字管式</p> <p>(c) ポンプは、回転式の場合はうず巻形、ターボ形、住復式の場合は住復形とする。</p> <p>(d) 圧縮機又は真空ポンプは、住復式又は回転式とする。</p> <p>(e) 冷却・加熱機能を有する機器は本体部及びコイル又はジャケット部とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 仕様表に記載する項目及び内容を追加。 添付-1については、再処理施設及び廃棄物管理施設を例に作成。

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>A. 容量又は注入速度及び揚程又は吐出圧力 通常運転時、設計基準事故時又は重大事故等時等の対応に必要な性能が異なる場合には、要求される性能を列記する必要があり、容量又は注入速度及び揚程又は吐出圧力の対応関係が分かるように記載することとする。</p> <p>C. 加熱面積及び伝熱面積 熱の伝達性能を表す必要があり、加熱及び伝熱に有効な面積を記載することとする。その際、有効な面積の算出に必要な情報については、構造図にて図示することとする。</p>	<p>c. 設計条件</p> <p>(a) 機器の種類 容器等の主要な溶接部の機器等の区分を明確にするため、機器の種類を記載する。また、コイル又はジャケット部等がある場合は、コイル又はジャケット部等と本体とを区別してその機種区分を記載する。</p> <p>(b) 耐震クラス 耐震設計上の重要度を分類した耐震クラス又は耐震重要度分類を記載する。設計基準対象施設については耐震クラス S, B, C 又は耐震重要度分類第 1 類, 第 2 類, 第 3 類を記載し、重大事故等対処設備がある場合は、() 内に可搬型重大事故等対処設備, 常設耐震重要重大事故等対処設備または常設耐震重要重大事故等対処設備以外の常設重大事故等対処設備を記載する。</p> <p>(c) 流体の種類 機器等で取扱う流体を示すため、流体の種類を記載する。設備の構造上、複数の流体を記載する必要がある場合は、区別して記載する。</p> <p>(d) 設計能力 (容量, 揚程, 加熱面積, 伝熱面積, 吐出圧力, 計測範囲, 除去効率等) 技術基準の要求事項を満足するために必要な機能 (設計能力) を示す項目として記載する。 ポンプ等の容量及び揚程又は吐出圧力を表す必要がある機器において、通常運転時、設計基準事故時又は重大事故時等の対応に必要な性能が異なる場合には、それらの対応関係がわかるように記載することとする。 また、熱の伝達性能を表す必要がある機器の場合には、伝熱に有効な面積を記載することとする。その際、有効な面積の算出に必要な情報については、構造図にて図示することとする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>B. 最高使用圧力、最高使用温度</p> <p>重大事故等対処設備については、重大事故等時における使用圧力以上の圧力又は使用温度以上の温度であって、設計上定めるもの（以下「重大事故等時における圧力又は温度」という。）を記載することとする。</p> <p>また、設計基準対象施設を重大事故等対処施設として使用する場合で、重大事故等時における圧力又は温度が、設計基準対象施設としての最高使用圧力又は最高使用温度を超える場合は、その対応関係が分かるように記載することとする。</p>	<p>記載する能力とその項目の例を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 容器では貯留能力を示すほか、しゃへいや火災等による損傷の防止の評価に使用する主要条件であることから容量を記載する。 ・ 熱交換器類については、設備に応じて設計熱交換量、設計燃焼熱量を記載する。 ・ 装置類及び廃ガス処理設備等は、設備の処理能力を記載する。 ・ サーモサイフォン型蒸発缶（加熱部）は貯留能力に加えて、処理容量及び設計熱交換量を記載する。サーモサイフォン型蒸発缶（気液分離部）及びジャケット型蒸発缶は、設計蒸発量を記載する。 ・ ポンプ類は、型式に応じて容量又は揚程を定格値として記載する。 <p>(e)最高使用圧力、最高使用温度</p> <p>機器等の強度評価に用いる等、設計条件の主要項目である最高使用温度、最高使用圧力を記載する。</p> <p>重大事故等対処設備については、重大事故時等における使用圧力以上の圧力又は使用温度以上の温度であって、設計上定めるもの（以下、「重大事故等時における圧力または温度」という。）を記載することとする。</p> <p>また、設計基準対象施設を重大事故等対処施設として使用する場合で、重大事故時等における圧力又は温度が、設計基準対象施設としての最高使用圧力または使用温度を超える場合は、その対応関係が分かるように記載することとする。</p> <p>なお、再処理施設、加工施設は、耐圧強度評価を行う設備に対して最高使用圧力及び最高使用温度を記載することとする。</p> <p>また、各設備において、内圧及び外圧の両方が発生するときは、両方の値を記載し、内圧及び外圧の別が分かるようにする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>以下に耐圧強度評価を行う設備の条件を示す。 (再処理施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業指定申請書で安全上重要な施設として定めたもの ・再処理第1種機器～第5種機器に属するもの ・放射性物質を内包し、内容積が10m³以上の容器 ・ウラン又はウランの化合物をウラン量で500kg以上内包する容器 ・海洋放出管理系に属するもの (MOX燃料加工施設・ウラン濃縮加工施設) ・加工第1種機器～第3種機器に属するもの ・耐震重要度分類第1類、第2類のウランを内包する容器、管 <p>(f) 臨界管理 臨界安全管理対象の機器は、核燃料物質が臨界に達するおそれがないようするための管理方法を記載する。臨界安全管理の管理方法である全濃度安全形状寸法管理、濃度管理、中性子吸収材管理等を記載する。</p> <p>(g) 核的制限値 核燃料物質が臨界に達するおそれがないよう、核燃料物質の濃度、質量若しくは同位体の組成の管理若しくは中性子吸収材の形状寸法、濃度若しくは材質の管理又はこれらの組合せにより臨界を防止するための措置における管理値を核的制限値として記載する。</p> <p>(h) 標準濃度 機器等で取扱う標準的放射能濃度を示すため、標準濃度を記載する。化学処理工程図に記載する内容のうち、液体(水相、有機相)については、βγ、α、U、Pu、気体については、βγ、α、U、Pu、Kr-85等を記載する。</p> <p>機器の構造上、標準濃度を2つ記載する場合(パルスカラム、ミキサ・セトラ等)は、水相及び有機相等に区別して記載する。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>D. 主要寸法、外径及び厚さ</p> <p>機器等の概略を示す「たて」「横」「高さ」等の他、容器、管等の性能又は構造強度等の評価に必要な主要な寸法、管等の外径については原則として公称値を記載することとし、容器等も含めて、厚さについては設計確認値（J I Sで定める許容差を差し引いた厚さの管の場合は除く。）及び公称値を記載することとする。なお、ホース等の一般産業品を重大事故等クラス3機器として使用する場合の厚さについては、その完成品が一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態においても、使用材料の特性を踏まえた強度を確保できる旨を設計確認値等に代えて記載することでもよいものとする。また、主要寸法については、構造図にて図示するとともに、公差についての説明を添付することとし、要目表に記載する主要寸法以外で評価に必要な詳細な寸法は計算書や構造図において記載することとする。具体的な記載の例について参考資料1に示す。</p> <p>複数の盤を組み合わせて構成される無停電電源装置等の主要寸法は、分離可能な盤単位の寸法を記載することとする。重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時にはその機能に期待しない可搬型の機器等のうち、実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（原規技発第1306194号（平成25年6月19日原子力規制委員会決定）。以下「技術基準規則解釈」という。）第54条の一般産業品で十分な予備品を確保することで対応する場合にあっては、一般産業品（完成品）としての「たて」「横」「高さ」等の概略寸法（車両に設置される機器等の場合は、当該車両の概略寸法を含む。）や他の機器等との取り合いの寸法を記載することでもよいこととする。</p>	<p>d. 仕様</p> <p>(a) 主要寸法</p> <p>機器等の概略を示す「たて」「横」「高さ」等のほか、容器、管等の性能又は構造強度等の評価に必要な主要な寸法、管等の外径について原則として公称値を記載することとし、容器等も含めて、厚さについては設計確認値（J I Sで定める許容差を差し引いた厚さの管の場合は除く。）及び公称値を記載することとする。</p> <p>なお、ホース等の一般産業品を重大事故等対処設備として使用する場合の厚さについては、その完成品が一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、重大事故時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態においても、使用材料の特性を踏まえた強度を確保できる旨を公称値等に変えて記載することでもよいものとする。また、主要寸法については、構造図にて図示するとともに、公差についての説明を添付することとし、仕様表に記載する主要寸法以外で評価に必要な詳細な寸法は計算書や構造図において記載することとする。</p> <p>複数の盤を組み合わせて構成される無停電電源装置等の主要寸法は、分離可能な盤単位の寸法を記載することとする。</p> <p>重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時にはその機能に期待しない可搬型の機器等のうち、一般産業品で十分な予備品を確保することで対応する場合にあっては、一般産業品（完成品）としての「たて」「横」「高さ」等の概略寸法（車両に設置される機器等の場合は、当該車両の概略寸法を含む。）や他の機器等との取り合いの寸法を記載することでもよいこととする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>E. 材料</p> <p>機器の構造強度又は耐震強度に影響を及ぼす機器の主となる部分（1種類又は必要に応じて数種類）を構成するものとする。</p> <p>発電用原子力設備規格 設計・建設規格（JSME S NC-1 日本機械学会。以下「設計・建設規格」という。）又は発電用原子力設備規格 材料規格（JSME S NJ-1 日本機械学会。以下「材料規格」という。）に規定されていない材料であって、その化学的成分及び機械的強度が設計・建設規格又は材料規格で規定する材料と同等以上である場合には、「同等材」として要目表に記載することとし、併せて、その材料の化学的成分及び機械的強度に関する事項（化学的成分及び機械的強度がJIS、ASTM等の規格に基づくものであって当該規格が公表されているものは、規格番号等を記載した書類であってもよい。）を要目表に記載することとする。その際、別紙として記載することでもよいものとする。なお、主となる部分以外のもの、詳細解析に必要となるものは、添付書類等に記載することとする。</p>	<p>(b) 主要材料</p> <p>機器等の安全性評価や強度評価等の対象となる主要な材質を記載する。</p> <p>機器の構造強度又は耐震強度に影響を及ぼす機器の主となる部分（1種類又は必要に応じて数種類）を構成するものを記載する。</p> <p>再処理設備規格 設計規格（JSME S RA-1 日本機械学会）（以下「設計規格」という。）に規定されていない材料であって、その化学的成分及び機械的強度が設計規格で規定する材料と同等以上である場合には、「同等材」として仕様表に記載することとし、併せて、その材料の化学的成分及び機械的強度に関する事項（化学的成分及び機械的強度がJIS、ASTM等の規格に基づくものであって当該規格が公表されているものは、規格番号等を記載した書類であってもよい。）を仕様表に記載することとする。その際、別紙として記載することでもよいものとする。なお、主となる部分以外のもの、詳細解析に必要となるものは、添付書類等に記載することとする。</p> <p>なお、再処理施設以外の設計規格のない施設においては、以下のとおりとする。JIS、ASTM等の規格に規定されていない材料であって、その科学的成分及び機械的強度がJIS、ASTM等の規格に規定する材料と同等以上である場合には、「同等材」として仕様表に記載することとし、併せて、その材料の化学的成分及び機械的強度に関する事項を仕様表に記載することとする。その際、別紙として記載することでもよいものとする。</p> <p>なお、主となる部分以外のもの、詳細解析に必要となるものは、添付書類等に記載することとする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>F. 個数</p> <p>重大事故等対処設備であって、通常運転時及び設計基準事故時には その機能に期待しないものにあつては、技術基準規則上必要な個数と バックアップの個数とを分けて記載するとともに、「〇〇以上」として、維持する必要がある個数を記載することでもよいこととする。なお、バックアップについて () を付して個数及びバックアップである旨の注釈を記載することとする。</p> <p>一方、通常運転時及び設計基準事故時に用いるための機器等であって、機器の点検又は取替えを効率的に行うため、繰り返しの入替えを目的として取替えを行う原子炉冷却材圧力バウンダリに係る機器等（主蒸気安全弁、主蒸気逃がし安全弁、制御棒駆動機構、改良型沸騰水型発電用原子炉施設の原子炉再循環ポンプモーターカバー及び補助カバー並びに加圧水型発電用原子炉施設の一次冷却材ポンプケーシングカバー等）については、設計上必要となる個数を記載し、予備品について () を付して個数及び予備品である旨の注釈を記載することとする。そのため、使用前検査又は供用の実績のない予備品の使用については、予備品の数の変更となり、改造の工事となる。</p>	<p>材料記号の記載方法は以下のとおりとする。</p> <p>① J I S規格に基づく材料記号の記載（施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備の施設以降に、J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても、今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。 ・既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは、今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。 <p>② J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>企業のプライベート規格を使用している一般産業品については、使用している材料を総称する一般名を記載する。</p> <p>(c)個数（基数）</p> <p>機器等の個数（基数）を示すため、記載する。</p> <p>重大事故等対処設備の可搬型設備のように維持する必要がある個数については、「〇〇以上」と記載することでもよいこととする。</p> <p>なお、バックアップについて () を付して個数及びバックアップである旨の注釈を記載することとする。</p>	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S規格に基づく材料記号の記載（施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。）</p> <p>①設備の施設以降に、J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても、今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは、今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については、使用している材料を総称する一般名を記載する。</p>	<p>・当社において、該当する設備がないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>P. 効率、再結合効率</p> <p>効率は、公衆の放射線障害の防止を目的として設置するフィルターについて、対象とする放射性物質を除去する割合とする。</p> <p>再結合効率は、再結合装置内に流入した水素を酸素と再結合し除去する割合をいう。</p> <p>O. 空気流入率</p> <p>空気流入率は、技術基準規則において居住性に係る被ばく評価を求めている中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所に設置する送風機及び排風機について記載するものとする。なお、送風機及び排風機を共に有する場合は、一体として空気流入率を記載することでもよいこととする。正圧管理で流入が想定されない場合はその旨を付記するものとする。</p> <p>L. 検出器の種類</p> <p>計測装置及び放射線管理用計測装置においては検出原理を示すものとし、以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の計測－「弾性圧力検出器」等 ・温度の計測－「測温抵抗体」及び「熱電対」等 ・流量の計測－「差圧式流量検出器」及び「電磁式流量検出器」等 ・水位の計測－「差圧式水位検出器」等 ・水質の計測－「導電率検出器」等 ・放射線の計測－「電離箱」、「シンチレーション」及び「半導体式」等 <p>原子炉非常停止信号又は工学的安全施設等の起動信号においては、信号を発生する検出器を示すものとし、以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加圧器圧力検出器」、「一次冷却材温度検出器」及び「出力領域中性子検出器」等 	<p>(d) 効率</p> <p>公衆の放射線障害の防止を目的として設置するフィルター等について、対象とする放射性物質を除去する割合を記載する。</p> <p>(e) 空気流入率</p> <p>居住性に係る被ばく評価を求めている中央制御室、緊急時対策所に設置する送風機及び排風機について記載する。</p> <p>なお、送風機及び排風機を共に有する場合は、一体として空気流入率を記載することでもよいこととする。正圧管理で流入が想定されない場合はその旨を付記するものとする。</p> <p>(f) 計装設備</p> <p>検出器の種類、計測範囲、警報動作範囲、検出器個数、表示場所を記載する。</p> <p>なお、警報動作値を持たない検出器については、「－」を記載することとする。</p> <p>① 検出器の種類</p> <p>計測装置においては検出原理を示すものとし、以下の例を踏まえて記載することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圧力の計測－「エアパージ式差圧発信器」、「圧力発信器」等 ・温度の計測－「測温抵抗体」、「熱電対」等 ・流量の計測－「オリフィス式差圧発信器」、「電磁式」等 ・液位の計測－「エアパージ式差圧発信器」等 ・密度の計測－「エアパージ式差圧発信器」等 		<p>・水素の再結合装置については対象がないため削除。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>M. 原子炉非常停止信号又は工学的安全施設起動（作動）信号の設定値</p> <p>原子炉非常停止信号又は工学的安全施設起動（作動）信号の設定値については、上限値又は下限値であることを明確にするため、要目表に記載する値には「〇〇以下」又は「〇〇以上」と記載することとする。</p> <p>G. 取付箇所</p> <p>常設の機器等（可搬型の機器等の一部で通常運転時から使用箇所に取り付けている機器等を含む。）については、属する系統の機能の独立性及び位置的分散を示すために十分な配置を説明する記載とする必要があり、また、溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する必要がある。</p> <p>可搬型の機器等については、保管している場所に加え、使用時に取り付ける箇所を（ ）を付して記載することとする。</p>	<p>(g)放射線管理設備</p> <p>検出器の種類、計測範囲、警報動作範囲、検出器個数、表示場所を記載する。</p> <p>なお、警報動作値を持たない検出器については、「-」を記載することとする。</p> <p>①検出器の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線の計測-「電離箱」、「シンチレーション」、「半導体式」等 ・臨界警報装置-「プラスチックシンチレーション検出器」 <p>(h)電気設備</p> <p>電気設備及びディーゼル機関については、その用途（常用か非常用か）、使用電圧等を記載する。</p> <p>e. 取付箇所</p> <p>溢水防護上の配慮が必要な機器等については、防護区画との関係及び据付高さ等を記載する。</p> <p>なお、使用時に取り付ける箇所を（ ）を付して記載する。</p> <p>f. 原動機</p> <p>原動機の種類、出力、個数、取付箇所を記載する。</p>		<p>・当社において、該当する設備はないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>H. 原子炉冷却材又は一次冷却材の純度 沸騰水型発電用原子炉施設にあつては、pH、導電率及び塩素イオンに係るものを記載することとする。加圧水型発電用原子炉施設にあつては、pH、導電率、リチウムイオン、塩化物イオン、溶存酸素、溶存水素及び濁度に係るものを記載することとする。</p> <p>I. 制御方式及び制御方法 安全保護系にデジタル安全保護系を適用する場合には、デジタル安全保護系を適用することを記載することとする。なお、ここでいうデジタル安全保護系とは、安全保護系の論理演算機能（作動（起動）回路）がデジタル化されている設備をいう。また「原子炉の制御方法」に、制御棒価値ミニマイザによる制御方法について記載すること。</p> <p>J. 最大反応度価値 原子炉（炉心）が臨界（臨界近接を含める。）にある場合において、制御棒1本（複数の制御棒が同時に引き抜かれる場合にあつてはその制御棒全数）を引き抜くことにより炉心に生ずる反応度の変化量の最大値を記載することとする。</p> <p>K. 負の反応度添加率 全制御棒が挿入できない場合に液体制御材を注入することによって原子炉を停止する時に単位時間あたりに炉心に与えられる負の反応度の量を記載することとする。</p> <p>N. 中央制御室機能、中央制御室外原子炉停止機能、緊急時制御室操作機能及び緊急時対策所機能 技術基準規則に対応して具備することとしている機能を記載する必要がある。</p>	<p>g. 制御方式及び制御方法 再処理施設においては、安全保護系にデジタル安全保護系を適用する場合には、デジタル安全保護系を適用することを記載することとする。なお、ここでいうデジタル安全保護系とは、安全保護系の論理演算機能（作動（起動）回路）がデジタル化されている設備をいう。</p> <p>h. 中央制御室機能及び緊急時対策所機能 技術基準に対応して具備することとしている機能を記載する必要がある。</p>		<p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p> <p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p> <p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】

<比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考												
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲 (前略)</p> <p>また、兼用するもの(複数の設備の機能を持ったものをいう。)、共用するものがある場合には、主たる機能に 関係する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に 関係する設備の区分においては、主たる機能に関する 設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載すること で機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞ れの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。た だし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異 なる場合には、関係する設備区分での記載を網羅する必 要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するも のとする。</p>	<p>2.2 仕様表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) 他施設と共用する設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1032 457 1697 684"> <thead> <tr> <th colspan="2">仕様表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。</td> <td>モニタリングボス ト (○○施設, ○▽施 設と共用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>①他施設と共用する設備は、それぞれの施設に設備仕様を記載する。また、他施設と設備の一部を共用する場合は、その一部を共用する旨記載する。 (別紙1 記載例1/13: ①参照)</p> <p>②他施設と共用する設備を登録している側(以下、「設備登録側」という。)の設備名称を明確にするため、注記にて設備登録側である旨を記載する。 (別紙1 記載例2/13: ②参照)</p> <p>b. 兼用について</p> <p>(a) 複数の設備(系統)区分で兼用する設備の記載方針</p>	仕様表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。	モニタリングボス ト (○○施設, ○▽施 設と共用)	<p>2.2 要目表の記載方法</p> <p>(1) 施設に共通する記載</p> <p>a. 共用について</p> <p>(a) ○▽発電所登録側の共用する設備の名称についての表記は以下とする。</p> <table border="1" data-bbox="1783 457 2448 642"> <thead> <tr> <th colspan="2">要目表の記載方法</th> <th>記載例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常設/ 可搬型</td> <td>設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共用)」 を記載する。</td> <td>△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(b) 共用に関する記載ルールについて</p> <p>「○▽発電所登録側」に設備仕様一式を記載する。</p> <p>b. 兼用について</p> <p>(a) 複数の設備(系統)区分で兼用する設備の記載方針</p> <p>①従前の規制より複数の設備(系統)区分の設計基準対象施設として使用しているもの(残留熱除去系ポンプ等)は、従前の規制手続きと同様に主たる機能に着目し、設計基準対象施設として「主たる設備(系統)区分」のみに記載する。</p>	要目表の記載方法		記載例	常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共用)」 を記載する。	△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)	<p>・他施設との共用であるため、それぞれの施設に仕様を記載する。また、設備の一部を共用する場合は、共用部分がわかるように記載する。</p> <p>・当社において、設計基準対象施設は、複数の設備区分で兼用していないため、記載しない。</p>
仕様表の記載方法		記載例													
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○施設, ○▽施設と共 用)」を記載する。	モニタリングボス ト (○○施設, ○▽施 設と共用)													
要目表の記載方法		記載例													
常設/ 可搬型	設備名称のあとに「(○ ○, ○▽発電所共用)」 を記載する。	△△ポンプ (○○, ○▽発電所 共用)													

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①新たな規制への対応のために複数の設備（系統）区分の設備として使用する以下のものは、「主となる設備（系統）区分」に加え「兼用先」にも記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として新たに兼用するもの（データ収集装置等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 3/13 : ①参照) 新たに追加設置した重大事故等対処設備を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として兼用するもの（情報収集装置等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 4/13 : ①参照) <p>(b) 複数の設備（系統）区分で兼用する設備の記載方法 ①複数の設備（系統）区分の機能を持つ設備を他の設備（系統）区分の設備として兼用するものは、「主となる設備（系統）区分」に「兼用先」の設備別記載事項を追加し、注記を付記する。</p> <p>②「兼用先」への記載は、文章にて「主となる設備（系統）区分」、「兼用すること」及び「設備（系統）名称」を記載する。 (別紙1 記載例 5/13 : ①参照)</p>	<p>②新たな規制への対応のために複数の設備（系統）区分の設備として使用する以下のものは、「主となる設備（系統）区分」に加え「兼用先」にも記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の設計基準対象施設として新たに兼用するものは設計基準対象施設として「兼用先」に記載する。 既存の設計基準対象施設を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として新たに兼用するもの（ほう酸水注入ポンプ等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ①参照) 新たに追加設置した重大事故等対処設備を他の設備（系統）区分の重大事故等対処設備として兼用するもの（格納容器圧力逃がし装置、常設低圧代替注水ポンプ等）は重大事故等対処設備として「兼用先」に記載する。 (別紙1 記載例 2/14 : ①参照) <p>(b) 複数の設備（系統）区分で兼用する設備の記載方法 ①複数の設備（系統）区分の機能を持つ設備を他の設備（系統）区分の設備として兼用するものは、「主となる設備（系統）区分」に「兼用先」の設備別記載事項を追加し、注記を付記する。</p> <p>②「兼用先」への記載は、文章にて「主となる設備（系統）区分」、「兼用すること」及び「設備（系統）名称」を記載する。 (別紙1 記載例 3/14 : ①参照)</p>	<p>・当社において、設計基準対象施設は、複数の設備区分で兼用していないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>③「新たに登録する場合」の表記として、「本設工認で」の文章を記載することで新たな登録であることを示す。 (別紙1 記載例 5/13 : ②参照)</p> <p>(c) 「主となる設備(系統)区分」と「兼用先」の仕様表の関連付け</p> <p>①「主となる設備(系統)区分」には、「兼用先」の「設備(系統)区分」がわかるように、また「兼用先」には、「主となる設備(系統)区分」がわかるように記載し、互いの関連付けを行う。 記載は、「主となる設備(系統)区分」の名称欄に注記を付記し、「兼用先」の全ての設備(系統)区分を記載する。 これにより、「兼用先」同士の関連性が明らかになるため、「兼用先」では、「主となる設備(系統)区分」のみを記載する。 (別紙1 記載例 5/13 : ③参照)</p> <p>②「主となる施設区分」と「兼用先」の施設区分が異なる場合は、「施設区分」も含んで記載し、「兼用先」が同一の施設である場合には、「施設区分」の記載は行わない。</p>	<p>③「新たに登録する場合」の表記として、「本工事計画で」の文章を記載することで新たな登録であることを示す。 (別紙1 記載例 3/14 : ②参照)</p> <p>④設備(系統)区分によって記載すべき仕様(揚程等)が異なるものについては、その異なる仕様を一つの要目表にまとめて記載する。この場合、複数の仕様が併記されるため、該当する仕様に注記を付記し、対応する設備(系統)区分が明確になるように記載する。 (別紙1 記載例 4/14 : ①参照)</p> <p>(c) 「主となる設備(系統)区分」と「兼用先」の要目表の関連付け</p> <p>①「主となる設備(系統)区分」には、「兼用先」の「設備(系統)区分」がわかるように、また「兼用先」には、「主となる設備(系統)区分」がわかるように記載し、互いの関連付けを行う。 記載は、「主となる設備(系統)区分」の名称欄に注記を付記し、「兼用先」の全ての設備(系統)区分を記載する。 これにより、「兼用先」同士の関連性が明らかになるため、「兼用先」では、「主となる設備(系統)区分」のみを記載する。 (別紙1 記載例 3/14 : ③参照)</p> <p>②「主となる施設区分」と「兼用先」の施設区分が異なる場合は、「施設区分」も含んで記載し、「兼用先」が同一の施設である場合には、「施設区分」の記載は行わない。 (別紙1 記載例 2/14 : ②参照)</p>	<p>・当社において、設備区分によって記載すべき仕様が異なるものはないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>③「兼用する設備(系統)区分」については、別紙2の「仕様表 兼用先一覧」に従い兼用先を設定する。</p> <p>(d)「主となる設備(系統)区分」と同じ機器区分(容器、管等)が兼用先がない場合</p> <p>①「兼用先」では異なる機器区分となるが、仕様表として記載できる場合は、別紙2「仕様表 兼用先一覧表」の「兼用する施設・設備(系統)区分」に従い兼用先を設定し、仕様表に記載する。</p> <p>②「兼用先」で仕様表として記載できる機器区分がない場合、仕様表には記載せず、兼用先の施設の基本設計方針の「兼用設備リスト」に設備名を記載する。</p> <p>(e) 冷却系、換気空調系、電源系等に関しては、施設区分の兼用はしない。</p> <p>c. 変更前後の書き分け</p> <p>(a) 新たな規制への対応のため設工認の手続きが必要となる設備(以下①～⑦に示す設備)の仕様表については、必要な仕様を「変更後」に記載し「変更前」は「-」を記載する。 (別紙1 記載例6/13:①参照)</p> <p>この際、既設の設備を変更後に記載する設備は、注記を付記し既設の設備である旨を記載する。この場合、注記を付記する位置については、設備全体が既設である場合は、原則代表して「名称」欄又は対象設備が複数の場合(例:貯蔵ピット)は「変更後」欄に1か所、一部の仕様に変更等がある場合は該当する仕様個別に付記する。 (別紙1 記載例7/13:①参照)</p>	<p>③「兼用する設備(系統)区分」については、別紙2の「要目表 兼用先一覧」に従い兼用先を設定する。</p> <p>(d)「主となる設備(系統)区分」と同じ機器区分(容器、管等)が兼用先がない場合</p> <p>①「兼用先」では異なる機器区分となるが、要目表として記載できる場合は、別紙2「要目表 兼用先一覧表」の「兼用する施設・設備(系統)区分」に従い兼用先を設定し、要目表に記載する。</p> <p>②「兼用先」で要目表として記載できる機器区分がない場合、要目表には記載せず、兼用先の施設の基本設計方針の「兼用設備リスト」に設備名を記載する。</p> <p>(e) 情報提供系、サポート系(補機冷却系、換気空調系、電源系及び圧力逃がし装置の移送ポンプ及び配管)に関しては、施設区分の兼用はしない。</p> <p>c. 変更前後の書き分け</p> <p>(a) 新たな規制への対応のため工事計画の手続きが必要となる設備(以下①～⑦に示す設備)の要目表については、必要な仕様を「変更後」に記載し「変更前」は「-」を記載する。 (別紙1 記載例5/14:①参照)</p> <p>この際、既設の設備を変更後に記載する設備は、注記を付記し既設の設備である旨を記載する。この場合、注記を付記する位置については、設備全体が既設である場合は、原則代表して「名称」欄又は対象設備が複数の場合(例:火災区域構造物・火災区画構造物)は「変更後」欄に1か所、一部の仕様に変更等がある場合は該当する仕様個別に付記する。 (別紙1 記載例5/14:②参照)</p>	<p>・兼用先が多岐にわたらないため、兼用しない設備の記載はしない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①重大事故等対処設備として新たに追加設置した設備 (別紙1 記載例 8/13 : ①参照)</p> <p>②従前の規制では設工認の手続対象外であった既設設備を重大事故対処設備として新たに登録する設備又は新たに記載する仕様</p> <p>③兼用設備として新たに登録する設備又は仕様 (別紙1 記載例 9/13 : ①参照)</p> <p>④既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度、圧力等)が設計基準対象施設としての設計条件を超える仕様 (別紙1 記載例 10/13 : ①参照)</p> <p>⑤改造工事を行う設備(既設工認の本文記載事項の変更を伴うもの)</p> <p>(b) 従前の規制範囲内での記載の適正化を行う設備の仕様については、「変更前」に記載し「変更後」には「変更なし」を記載する。</p>	<p>①重大事故等対処設備として新たに追加設置した設備 (別紙1 記載例 2/14 : ③参照)</p> <p>②従前の規制では工事計画の手続対象外であった既設設備を重大事故対処設備として新たに登録する設備又は新たに記載する仕様</p> <p>③設計基準対処施設として新たに工事計画の手続き対象となった設備又は仕様 (別紙1 記載例 5/14 : ③参照)</p> <p>④既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に機器クラス区分が変更となることで要求事項(継手仕様等)が追加された設備</p> <p>⑤兼用設備として新たに登録する設備又は仕様 (別紙1 記載例 1/14 : ②参照)</p> <p>⑥既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度、圧力等)が設計基準対象施設としての設計条件を超える仕様 (別紙1 記載例 6/14 : ①参照)</p> <p>⑦改造工事を行う設備(既工事計画書の本文記載事項の変更を伴うもの)</p> <p>(b) 従前の規制範囲内での記載の適正化を行う設備の仕様については、「変更前」に記載し「変更後」には「変更なし」を記載する。</p>	<p>・設計基準対処施設として新たに設工認手続き対象となる設備はないため、記載しない。</p> <p>・機器クラス区分が存在しないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(d) 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用する設備については「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載する。この場合、当該設備がどちらの機能を有するかの識別は、基本設計方針の「主要設備リスト」で行う。 (別紙1 記載例 10/13 : ④参照)</p> <p>(e) 今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載した上で、名称欄に注記を付記し「手続き対象外」である旨を記載する。 また、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) 貯蔵ピット (手続き対象外)</p> <p>(f) 今回の手続きに関与しない設備については、仕様表の記載の適正化は行わない。</p> <p>(g) 記載の適正化として「変更前」に記載する際に、建設時の設工認等を出典として記載する場合において、既設工認本文に記載がないため添付書類又は添付図面を出典とする場合は、その添付書類又は添付図面が添付されている既設工認申請書の「認可年月日」、「認可番号」及び「添付書類又は添付図面の名称」を記載する。 既設工認の参考資料については、出典として使用しないこととする。 例：注記 *1：既設工認に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇号にて認可された設工認の〇〇による。 (別紙1 記載例 7/13 : ②参照)</p>	<p>(c) 従前の規制範囲と整合させるために非主配管化する範囲については、「変更前」に既工事計画書の値を記載し、「変更後」を「-」とした上で、注記を付記し「記載の適正化を行う」旨を記載する。 (別紙1 記載例 7/14 : ①参照)</p> <p>(d) 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用する設備については「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載する。この場合、当該設備がどちらの機能を有するかの識別は、基本設計方針の「主要設備リスト」で行う。 (別紙1 記載例 1/14 : ③参照)</p> <p>(e) 今回の手続き対象外で「記載の適正化のみ」を行う設備は、「変更前」に仕様を記載し、「変更後」に「変更なし」と記載した上で、名称欄に注記を付記し「手続き対象外」である旨を記載する。 また、「申請範囲」に手続き対象外である旨を記載する。 (例) 〇〇ポンプ (手続き対象外)</p> <p>(f) 今回の手続きに関与しない設備については、要目表の記載の適正化は行わない。</p> <p>(g) 記載の適正化として「変更前」に記載する際に、建設時の工事計画書等を出典として記載する場合において、既工事計画書本文に記載がないため添付書類又は添付図面を出典とする場合は、その添付書類又は添付図面が添付されている既工事計画認可申請書の「認可年月日」、「認可番号」及び「添付書類又は添付図面の名称」を記載する。 既工事計画書の参考資料については、出典として使用しないこととする。 例：注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇資序第〇〇号にて認可された工事計画の〇〇による。 (別紙1 記載例 1/14 : ④参照)</p>	<p>・非主配管化する設備はないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(h) 既設工認本文の記載事項の記載の適正化を行う場合は、これらの許認可情報は記載せず、「既設工認」の記載を注記に記載する。</p> <div data-bbox="1095 428 1703 516" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 例：注記 *1：記載の適正化を行う。既設工認には「〇〇」と記載。 </div> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 8/13 : ①参照)</p> <p>(i) 既設工認に設備自体の記載がないものを「変更前」に記載する場合は、「名称」欄又は「変更前」欄に注記を付記し、その設備仕様一式そのものが既設工認に記載がないことを示す。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 8/13 : ②参照)</p> <p>(j) 既設工認に記載された主配管の「区間」において「〇〇ポンプから△△配管合流部まで」などと記載されている場合は「〇〇ポンプ～△△配管合流部」と記載を修正する。ただし、「区間」の範囲の見直しを伴わない修正である場合は注記を付記しない。</p> <div data-bbox="1071 1142 1679 1287" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 例：〇〇ポンプから△△配管合流部まで ↓ 〇〇ポンプ～△△配管合流部 </div> <p>(k) 設工認に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。なお、改造にあたってポンプは変更後に「-」を記し、注記を付記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。 ・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。 	<p>(h) 既工事計画書本文の記載事項の記載の適正化を行う場合は、これらの許認可情報は記載せず、「既工事計画書」の記載を注記に記載する。</p> <div data-bbox="1846 428 2454 516" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 例：注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「〇〇」と記載。 </div> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 1/14 : ⑤参照)</p> <p>(i) 既工事計画書に設備自体の記載がないものを「変更前」に記載する場合は、「名称」欄又は「変更前」欄に注記を付記し、その設備仕様一式そのものが既工事計画書に記載がないことを示す。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 8/14 : ①参照)</p> <p>(j) 既工事計画書に記載された主配管の「区間」において「〇〇ポンプから△△配管合流部まで」などと記載されている場合は「〇〇ポンプ～△△配管合流部」と記載を修正する。ただし、「区間」の範囲の見直しを伴わない修正である場合は注記を付記しない。</p> <div data-bbox="1822 1142 2430 1287" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 例：〇〇ポンプから△△配管合流部まで ↓ 〇〇ポンプ～△△配管合流部 </div> <p>(k) 工事計画書に記載のある機器等を廃止手続きする際の記載については、「変更後」に、「撤去」または「廃止」を記載する。なお、改造にあたって別表第一対象外のポンプは変更後に「-」を記し、注記を付記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「撤去」と記載する場合：今回の申請において機器等の撤去を行うもの。 ・「廃止」と記載する場合：今回の申請においては、機器等の撤去は行わず、廃止手続きを行うもの。 <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 9/14 : ①参照) (別紙1 記載例 10/14 : ①参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手順ガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>e. 重大事故等対処設備としての使用時における値について</p> <p>(a) 既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度, 圧力)が設計基準対象施設としての設計条件を超える設備については、その超える部分の仕様を併記する。この際、上段を設計基準対象施設としての値、下段に()書きで重大事故等対処設備としての使用時における値とし、注記を付記して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。</p> <p>なお、耐圧要求がない既設の設計基準対象施設については、既設工認において仕様表上で使用条件(温度, 圧力)を示していないことから、重大事故等時における使用条件のみを記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 10/13 : ②参照)</p>	<p>(1) 別表第一に該当する取替対象設備については、「変更後」に取替えを実施する旨を注記に記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 11/14 : ①参照)</p> <p>d. 同じ設備区分で同一機器を異なる用途で使用する場合の記載について</p> <p>計測制御系統施設の原子炉非常停止信号及び工学的安全施設等の起動信号に記載される検出器のように、異なる用途に対し同一の検出器を使用する場合は兼用とはならないが、使用する全ての用途が明確となるよう、注記を付記し、互いの関連付けを行う。</p> <p>(別紙1 記載例 12/14 : ①参照)</p> <p>e. 重大事故等対処設備としての使用時における値について</p> <p>(a) 既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として使用する設備のうち、重大事故等対処設備としての使用条件(温度, 圧力)が設計基準対象施設としての設計条件を超える設備については、その超える部分の仕様を「変更後」に記載する。この際、上段を設計基準対象施設としての値、下段を重大事故等対処設備としての使用時における値とし、注記を付記して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 6/14 : ②参照)</p>	<p>・取替対象設備はないため、記載しない。</p> <p>・同じ設備区分で同一機器を異なる用途で使用する設備はないため、記載しない。</p> <p>・DB 設備として、使用条件が示されていない場合があるため、記載を追加。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>1) 機器等の仕様に関する記載要求範囲 (前略)</p> <p>また、配管等の「厚さ」、熱交換器(蒸気発生器を含む)、ポンプ、圧縮機、容器その他の機器等の「容量」および熱交換器(蒸気発生器含む)の「伝熱面積」等については、当該機器等の性能又は強度等が技術基準規則等に適合していることを確認したもの(以下「設計確認値」という。)と公称値を併記することとし、設計確認値の記載については、「○以上」又は「○以下」のように、下限又は上限である旨を明記してもよいこととする。その他、技術基準規則の規定内容に加え、以下の内容を踏まえて記載するものとする。</p>	<p>(b) 重大事故等対処設備としてのみ使用する設備については、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」(ポンプ等については「容量」、「揚程」も含む)の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。また、既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に、記載が追加された管継手についても重大事故等対処設備としてのみ使用する設備として、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 6/13 : ②参照)</p> <p>f. 設計確認値</p> <p>(a) ポンプ、熱交換器、容器等の容量、熱交換器等の伝熱面積及び JIS 配管を除く配管等の厚さについては「設計確認値」及び「公称値」を記載する。ただし、設計図書等にて「設計確認値」が明記されていない場合は、「公称値」と同一値を記載する。 また、従来、「設計確認値」のみを記載していたものについては、原則、同一の値を「公称値」として記載する。 ただし、安全弁・逃がし弁のリフト量、主要弁の弁箱厚さ及び弁蓋厚さ等の機器仕様上の最小値を記載している場合は「設計確認値」のみ記載する。 (別紙1 記載例 10/13 : ③参照)</p> <p>(b) 「設計確認値」及び「公称値」を併記する場合は、「設計確認値」の後に括弧を付して「公称値」を記載し、注記を付して「公称値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 10/13 : ③参照)</p>	<p>(b) 重大事故等対処設備としてのみ使用する設備については、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」(ポンプ等については「容量」、「揚程」も含む)の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。また、既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に、機器クラス区分が変更になることで、記載が追加された管継手についても重大事故等対処設備としてのみ使用する設備として、「最高使用圧力」及び「最高使用温度」の項目欄に注記を付して「重大事故等時における使用時の値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 2/14 : ④参照) (別紙1 記載例 4/14 : ②参照)</p> <p>f. 設計確認値</p> <p>(a) ポンプ、熱交換器、容器等の容量、熱交換器等の伝熱面積及び J I S 配管を除く配管等の厚さについては「設計確認値」及び「公称値」を記載する。ただし、設計図書等にて「設計確認値」が明記されていない場合は、「公称値」と同一値を記載する。 また、従来、「設計確認値」のみを記載していたものについては、原則、同一の値を「公称値」として記載する。 ただし、安全弁・逃がし弁のリフト量、主要弁の弁箱厚さ及び弁蓋厚さ等の機器仕様上の最小値を記載している場合は「設計確認値」のみ記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ⑥参照)</p> <p>(b) 「設計確認値」及び「公称値」を併記する場合は、「設計確認値」の後に括弧を付して「公称値」を記載し、注記を付して「公称値」である旨を記載する。 (別紙1 記載例 1/14 : ⑥参照)</p>	<p>・機器クラス区分が存在しないため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S規格に基づく材料記号の記載 (施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。)</p> <p>①設備の施設以降に, J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても, 今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは, 今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については, 使用している材料を総称する一般名を記載する。</p> <p>h. 個数</p> <p>(a) 技術基準規則上, 予備を必要とする設備については, 括弧外に必要数を記載し, 括弧内に予備数を併記する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 6/13 : ③参照)</p> <p>なお, 可搬型の主配管については, 後述の「(2) 個別設備の記載 b. 個別事項 (配管), (c) 可搬型主配管」に示す。</p> <p>i. 取付箇所</p> <p>(a) 常設設備 (可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備を含む。) の取付箇所については「系統名 (ライン名)」、「設置床」、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載する。</p> <p>なお, 内部溢水防護等の対象とならない廃棄物管理施設は取付箇所を記載しない。また, 安重設備がなく, 溢水防護上の区画番号がない加工施設は, 「系統名 (ライン名)」、「設置床」、「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載する。</p>	<p>g. 材料記号の記載</p> <p>(a) J I S規格に基づく材料記号の記載 (施設時の J I S規格に基づく材料記号を記載する。)</p> <p>①設備の施設以降に, J I S規格改定により材料記号が変更されたものであっても, 今回の申請において施設時の J I S材料記号を記載する。</p> <p>②既設設備の一部に最新の J I S規格が使用されたものは, 今回の申請において施設時の J I S材料記号と最新の J I S材料記号をそれぞれ記載する。</p> <p>(b) J I S規格以外を使用する材料記号の記載</p> <p>①企業のプライベート規格を使用している一般産業品については, 使用している材料を総称する一般名を記載する。</p> <p>h. 個数</p> <p>(a) 可搬型設備のうち技術基準規則上, 予備を必要とする設備については, 括弧外に必要数を記載し, 括弧内に予備数を併記する。</p> <p style="text-align: center;">(別紙1 記載例 4/14 : ③参照)</p> <p>なお, 可搬型の主配管については, 後述の「(2) 個別設備の記載, b. 個別事項 (配管), (c) 可搬型主配管」に示す。</p> <p>i. 取付箇所</p> <p>(a) 常設設備 (可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備を含む。) の取付箇所については「系統名 (ライン名)」、「設置床」、「溢水防護上の区画番号」及び「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載する。</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>①「属する系統の機能の独立性」の確認のため、仕様表へ「系統名(ライン名)」を記載し、「系統図」との関連付けを行う。ポンプA, B や弁A, B, C等の複数機器を1件の仕様表に記載する場合には、その機器毎に「系統名(ライン名)」を記載する。なお、系統に接続されない機器(クレーン等)は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>②「位置的分散」の確認のため、仕様表へ「設置床」を記載し、「配置図」との関連付けを行う。記載欄には「建屋名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>③「〇〇施設の溢水による損傷の防止に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、仕様表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>④溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定した上で、裕度を設定して仕様表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。 新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p>	<p>①「属する系統の機能の独立性」の確認のため、要目表へ「系統名(ライン名)」を記載し、「系統図」との関連付けを行う。ポンプA, B や弁A, B, C等の複数機器を1件の要目表に記載する場合には、その機器毎に「系統名(ライン名)」を記載する。なお、系統に接続されない機器(クレーン等)は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>②「位置的分散」の確認のため、要目表へ「設置床」を記載し、「配置図」との関連付けを行う。記載欄には「建屋名称」及び機器等の「設置床レベル」を記載する。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>③「発電用原子炉施設の溢水防護に関する説明書」の「防護対象設備リスト」及び「防護区画図面」との関連付けを行うため、要目表へ「溢水防護上の区画番号」を記載する。新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p> <p>④溢水防護上の配慮が必要となる機器等について、その機器が設置される区画のうち、機能喪失高さが最も低いものを選定した上で、裕度を設定して要目表へ「溢水防護上の配慮が必要な高さ」として記載する。 新規要求事項であるため「変更後」の欄に記載する。 なお、溢水防護の対象設備以外の機器は「-」とする。 (詳細は別紙3参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(b) 可搬型設備の取付箇所については、「保管場所」及び「取付箇所」を記載する。</p> <p>①屋外の可搬型設備の「保管場所」は、保管場所の設置床高さ及び保管場所が特定可能な記載とする。この場合、移動可能な設備であることを考慮し設置床高さには「約」を付記する。なお、設置床高さの表記方法については、事業変更許可申請書に準じる。 (別紙1 記載例 11/13 : ①参照)</p> <p>②屋外の可搬型設備の「取付箇所」は、取付箇所の設置床高さ及び取付箇所が特定可能な記載とする。 (別紙1 記載例 11/13 : ②参照)</p> <p>③可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備については、一部常設箇所の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載し、その旨が分かるよう注記を付記する。</p> <p>④可搬型ホースについて、複数の敷設ルートがある場合には、敷設距離が最長となるルートについて注記で記載する。また、複数の長さのホースを組み合わせる場合は、その内訳を注記で記載する。 (詳細は別紙4参照)</p>	<p>(b) 可搬型設備の取付箇所については、「保管場所」及び「取付箇所」を記載する。</p> <p>①屋外の可搬型設備の「保管場所」は、保管場所の設置床高さ及び保管場所が特定可能な記載とする。この場合、移動可能な設備であることを考慮し設置床高さには「約」を付記する。なお、設置床高さの表記方法については、設置変更許可申請書に準じる。 (別紙1 記載例 4/14 : ④参照)</p> <p>②屋外の可搬型設備の「取付箇所」は、取付箇所の設置床高さ及び取付箇所が特定可能な記載とする。 (別紙1 記載例 4/14 : ⑤参照)</p> <p>③可搬型設備のうち一部常設箇所を有する設備については、一部常設箇所の「溢水防護上の配慮が必要な高さ」を記載し、その旨が分かるよう注記を付記する。</p> <p>④可搬型ホースについて、複数の敷設ルートがある場合には、敷設距離が最長となるルートについて注記で記載する。また、複数の長さのホースを組み合わせる場合は、その内訳を注記で記載する。 (詳細は別紙4参照)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>j. S I 単位換算</p> <p>(a) 既設工認に記載がある設備のうち、S I 単位で記載されていないものについては、S I 単位に換算した値を記載し、注記を付して「S I 単位に換算した」旨を記載する。</p> <p>k. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既設工認（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本設工認は、届け出した設計及び工事の計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。</p> <p>(b) 今回の一体工事として手続きしないものについては、別途、「設工認」の「変更認可申請」、「変更届出」等の手続きを行う。そのため、これらに係る設備のうち今回の一体工事の手続きとして必要となるものは、仕様表に記載するものとする。その場合において注記は記載しない。</p>	<p>j. S I 単位換算</p> <p>(a) 既工事計画書に記載がある設備のうち、S I 単位で記載されていないものについては、S I 単位に換算した値を「変更前」に記載し、注記を付して「S I 単位に換算した」旨を記載する。</p> <p>(別紙1 記載例 7 / 14 : ②参照)</p> <p>k. 使用前検査未完了の工事</p> <p>(a) 新規制施行前に工事の計画の認可又は届出した工事のうち、使用前検査に合格していないもので、今回の一体工事として手続きするものについては、「基本設計方針の変更の工事」として扱う。この場合、「変更前」に認可又は届出後の仕様を記載し、注記で基本設計方針の変更である旨の記載を行う。</p> <p>例：届出した工事</p> <p>注記 *1：記載内容は、既工事計画書（平成〇〇年〇〇月〇〇日付け原発本第〇〇〇号工事計画届出書）による。なお、本工事計画書は、届け出した工事計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。</p> <p>(b) 今回の一体工事として手続きしないものについては、別途、「工事計画」の「変更認可申請」、「変更届出」等の手続きを行う。そのため、これらに係る設備のうち今回の一体工事の手続きとして必要となるものは、要目表の「変更前」部分に「既に認可を受けた」工事計画の「変更前」の部分を記載するものとする。その場合において注記は記載しない。</p>	

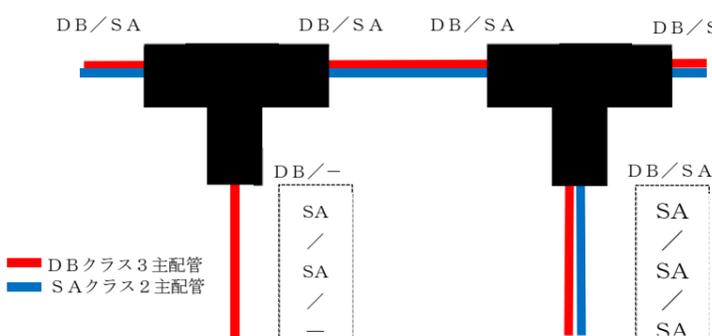
発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>1. 防護上の配慮が必要な設備</p> <p>(a) 耐震基準変更に伴う耐震Sクラス設備, 溢水防護上の配慮が必要となる防護対象設備, 竜巻, 火山又は外部火災等における防護対象であって仕様表記載対象設備の場合は, 基準変更対応としての手続き対象設備として仕様表に記載する。</p> <p>m. 機能及び使用方法が同じ設備を複数台保有する場合の名称</p> <p>(a) 再循環系ポンプや逃がし安全弁等, 機能及び使用方法が同じ設備を複数保有する場合の名称は, 「A」, 「B」, 「C」等の個体を識別して記載する。</p> <p>(例) ○○建屋非常用蓄電池 A, B</p> <p>(b) 弁については弁番号で記載することとし, 個体識別を付記した設備名称を記載する。なお, 機能及び使用方法が同じ設備についてはまとめて記載する。</p> <p>(例) 仕様表記載名称「○○弁 (○○-W○○)」</p> <p>n. 竜巻, 内部溢水評価等の制約により分散配置を必要とする設備については, 仕様表の取付箇所 (保管場所) 欄に分散して保管する旨を記載する。(可搬型代替注水中型ポンプ等)</p>	<p>1. 防護上の配慮が必要な設備</p> <p>(a) 耐震基準変更に伴う耐震Sクラス設備, 共振の影響を受ける耐震Bクラス設備, 溢水防護上の配慮が必要となる防護対象設備, 竜巻, 火山又は外部火災等における防護対象であって別表第二の要目表対象設備の場合は, 基準変更対応としての手続き対象設備として要目表に記載する。</p> <p>m. 機能及び使用方法が同じ設備を複数台保有する場合の名称</p> <p>(a) 再循環系ポンプや逃がし安全弁等, 機能及び使用方法が同じ設備を複数保有する場合の名称は, 「A」, 「B」, 「C」等の個体識別を記載せず, 設備名称のみ記載する。</p> <p>(例) 保有設備「再循環系ポンプ A, B」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">要目表記載名称「再循環系ポンプ」</p> <p>(b) 弁については弁番号で記載することとし, 個体識別を付記した設備名称を記載する。なお, 機能及び使用方法が同じ設備についてはまとめて記載する。</p> <p>(例) 要目表記載名称「E12-F017A, B」</p> <p>n. 竜巻, 内部溢水評価等の制約により分散配置を必要とする設備については, 要目表の取付箇所 (保管場所) 欄に分散して保管する旨を記載する。(可搬型代替注水中型ポンプ等)</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>規則別表第2の中欄においては、同表の上欄で示している発電用原子炉施設の種類として、原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設及びその他発電用原子炉の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯蔵槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルター等の機器等を記載することとされている。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p>	<p>(2) 個別設備の記載</p> <p>a. 個別事項 (機器)</p> <p>(a) 工学的安全施設等の作動設定値において、既設の検出器を重大事故等対処設備として兼用し、ロジック回路のみ新たに構成する場合については、変更後の設備仕様を記載する。この場合、検出器は既設であること及び兼用であることを注記する。</p> <p>(b) 計測制御系統施設及び放射線管理施設については「計測範囲」及び「警報動作範囲」を記載するが、設計基準対象施設、重大事故等対処設備ともに技術基準規則で要求されている計測装置のみ適用し、計測範囲や警報動作を適用しない設備については、「-」とする。なお、既設工認の記載の適正化を行い「-」と記載する場合は、注記を付記して、警報動作を適用しない旨を記載する。 (別紙1 記載例 12/13 : ②参照)</p> <p>(c) 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において考慮する生体遮蔽装置について 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において解析上遮蔽として考慮する壁等については、「中央制御室遮蔽」又は「緊急時対策所遮蔽」として記載する。</p>	<p>(2) 個別設備の記載</p> <p>a. 個別事項 (機器)</p> <p>(a) 工学的安全施設等の作動設定値において、既設の検出器を重大事故等対処設備として兼用し、ロジック回路のみ新たに構成する場合については、「変更前」を「-」とし、「変更後」に設備仕様を記載する。この場合、検出器は既設であること及び原子炉非常停止信号の検出器と兼用であることを注記する。</p> <p>(b) 非常用電源設備以外のポンプ車等に付属するポンプ駆動用の燃料タンク (車付タンク) については、補機駆動用燃料設備に記載する。また、ディーゼル機関を駆動源とする消火ポンプの燃料タンクも同様とする。</p> <p>(c) 「別表第二」記載事項のうち計測制御系統施設及び放射線管理施設に記載されている「警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。」については、設計基準対象施設、重大事故等対処設備ともに技術基準規則で要求されている計測装置のみ適用し、警報動作を適用しない設備については、「-」とする。なお、既工事計画書の記載の適正化を行う場合は、注記を付記して、警報動作を適用しない旨を記載する。 (別紙1 記載例 13/14 : ①参照)</p> <p>(d) 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において考慮する生体遮蔽装置について 中央制御室及び緊急時対策所の居住性評価において解析上遮蔽として考慮する壁等については、「中央制御室遮蔽」、「中央制御室待避室遮蔽」、「二次遮蔽」又は「緊急時対策所遮蔽」として記載する。</p>	<p>・該当する機器が存在しないため、削除。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>b. 個別事項 (配管)</p> <p>(a) 仕様表名称</p> <p>主配管については用途, 使用範囲等の明確化のため, 以下の範囲で名称を細分化する。</p> <p>①設計基準対象施設のみの境界</p> <p>②重大事故等対処設備のみの境界</p> <p>③重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので, 設計基準対象施設としての仕様から変更がない境界</p> <p>④重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので, 設計基準対象施設としての仕様から変更がある境界</p> <p>⑤兼用設備の境界</p> <p>⑥耐震重要度分類Sクラスの境界</p> <p>⑦主配管と非主配管の境界</p>	<p>b. 個別事項 (配管)</p> <p>(a) 要目表名称</p> <p>主配管については用途, 使用範囲等の明確化のため, 以下の範囲で名称を細分化する。</p> <p>①設計基準対象施設のみの境界</p> <p>②重大事故等対処設備のみの境界</p> <p>③重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので, 設計基準対象施設としての仕様から変更がない境界</p> <p>④重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので, 設計基準対象施設としての仕様から変更がある境界</p> <p>⑤兼用設備の境界</p> <p>⑥耐震重要度分類Sクラスの境界</p> <p>⑦主配管と非主配管の境界</p> <p>(b) 管継手</p> <p>①既設の設計基準対象施設を重大事故等対処設備として新たに登録する際に, 機器クラス区分が変更になることで, 記載が追加された管継手は「変更前」を「-」とし, 「変更後」に管継手の仕様を記載し, 注記で「既設」である旨を記載する。</p> <p>また, 上記のうち「T継手」については, 重大事故等時に使用する流路に対して仕様を記載する。即ち, T継手の分岐部が設計基準対象施設上は主配管であっても, 当該分岐部が重大事故等時に使用しない流路である場合は, 当該T継手の分岐部は「-」とする。</p>  <p>The diagram shows two T-junctions. The left one has a red main pipe (DB Class 3) and a blue branch pipe (SA Class 2). Labels above the main pipe are DB/SA, and labels above the branch pipe are DB/- and SA/SA. The right one has a blue main pipe (SA Class 2) and a red branch pipe (DB Class 3). Labels above the main pipe are DB/SA, and labels above the branch pipe are DB/SA and SA/SA. A legend at the bottom left identifies red as DB Class 3 main pipe and blue as SA Class 2 main pipe.</p>	<p>・再処理施設の溶接検査の機種区分としては, 第1種から第5種までが規定されているが, 構造評価に対しては機種区分が規定されていない。これは, 再処理施設は, 基本的には低温, 低圧であり耐圧強度評価において厳しい評価とはならない。このことから強度評価においては機器のクラス分けは行わず, 軽水炉のクラス3機器相当として一律の評価がなされている。したがって, 当社の管継手は手続きガイドにある要目表へ記載を必要としないJIS規格のものを使用しているため, 管継手を仕様表対象としない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>(c) 可搬型ホース</p> <p>①可搬型ホースについては、接続する箇所が分かるような名称にするとともに、ホース1本当たりの長さを名称へ記載する。 (例) ○○ライン△△用□□m ホース (別紙1 記載例 13/13 : ①参照)</p> <p>②外径が記載できない可搬型ホースの外径については、呼び径を記載し、その旨を注記する。 (別紙1 記載例 13/13 : ②参照)</p> <p>③厚さが記載できない可搬型ホースの厚さは「-」を記載し、その旨を注記する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注記 1) : メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。 (別紙1 記載例 13/13 : ③参照)</p> </div>	<p>②既設の設計基準対象施設のクラス2配管の管継手に関しては、既工事計画書に記載されていないもので新規制においても主配管に該当する場合は、記載の適正化として「変更前」に管継手を追記し、その旨を注記で記載する。</p> <p>③管にエルボを含む場合は、その厚さが配管と同等以上である旨を注記で記載する。</p> <p>(c) 可搬型主配管</p> <p>①可搬型主配管のうち、可搬型ホースについては、接続する箇所が分かるような名称にするとともに、ホース1本当たりの長さを名称へ記載する。 (例) ○○ライン△△用□□m ホース (別紙1 記載例 14/14 : ①参照)</p> <p>②外径が記載できない可搬型主配管の外径については、呼び径を記載し、その旨を注記する。 (別紙1 記載例 14/14 : ②参照)</p> <p>③厚さが記載できない可搬型主配管の厚さは「-」を記載し、その旨を注記する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注記 *1 : メーカー仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、使用材料の特性を踏まえた上で、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。 (別紙1 記載例 14/14 : ③参照)</p> </div>	<p>・可搬型主配管は存在しないため、記載を修正。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続ガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
	<p>・非常用発電装置の常設ホースの記載は、以下とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 注記 *1: メーカー仕様によるものとし、「発電用火力設備に関する技術基準を定める省令」に基づき、規定の圧力まで昇圧した後、適切な時間保持したとき、これに耐え、また規定の圧力で点検を行ったとき、漏えいがないものを使用する。 </div> <p>④可搬型ホースの「個数」, 「取付箇所」欄の記載について可搬型ホースの「個数」欄及び「取付箇所」欄への記載方法を、別紙4に示す。なお、詳細な個数の内訳は「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書」に記載する。</p>	<p>・非常用発電装置の常設ホースの記載は、以下とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 注記 *1: メーカー仕様によるものとし、「発電用火力設備に関する技術基準を定める省令」に基づき、規定の圧力まで昇圧した後、適切な時間保持したとき、これに耐え、また規定の圧力で点検を行ったとき、漏えいがないものを使用する。 </div> <p>④可搬型主配管の「個数」, 「取付箇所」欄の記載について可搬型主配管の「個数」欄及び「取付箇所」欄への記載方法を、別紙4に示す。なお、詳細な個数の内訳は「設備別記載事項の設定根拠に関する説明書」に記載する。</p>	

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>規則別表第2の中欄においては、同表の上欄で示している発電用原子炉施設の種類の種類として、原子炉本体、核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設、原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射性廃棄物の廃棄施設、放射線管理施設、原子炉格納施設及びその他発電用原子炉の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯蔵槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルター等の機器等を記載することとされている。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p> <p>また、兼用するもの（複数の設備の機能を持ったものをいう。）、共用するものがある場合には、主たる機能に関する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に関する設備の区分においては、主たる機能に関する設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載することで機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞれの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。ただし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異なる場合には、関係する設備区分での記載を網羅する必要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するものとする。</p>	<p>(2) 設備及び機器等の記載要求範囲</p> <p>再処理規則第2条に規定される再処理施設の種類の種類として、使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、再処理設備本体、製品貯蔵施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他再処理設備の附属施設、廃棄物管理規則第4条に規定される特定廃棄物管理施設の種類の種類として、廃棄物管理設備本体、放射性廃棄物の受入施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他廃棄物管理設備の附属施設に区分し、設備ごとに熱交換器、ポンプ、容器、貯槽、ろ過装置、安全弁及び逃がし弁、主要弁、主配管、送風機、排風機並びにフィルタ等の機器等を記載する。これらについて、まず個別機器等の記載要求範囲を示すとともに、個別施設ごとに設備及び機器等の記載要求範囲を示す。</p> <p>また、兼用するもの（複数の設備の機能を持ったものをいう。）、共用するものがある場合には、主たる機能に関する設備の区分で機器等を記載し、その他の機能に関する設備の区分においては、主たる機能に関する設備の区分と機器等の名称及び構成等を記載することで機能を有する範囲を明確にすれば、必ずしもそれぞれの設備区分で同じ記載をする必要はないものとする。ただし、設備区分によって記載すべき機器等の仕様等が異なる場合は、関係する設備区分での記載を網羅する必要があり、どの区分に対応した記載内容かを付記するものとする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領（案）	発電炉 工認作成要領	備考
<p>(個別機器等事項)</p> <p>A. 主配管</p> <p>通常運転状態、工学的安全施設の作動状態又は重大事故等時においてその配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる配管をいう。使用済樹脂移送配管のように、流体が常時流れないものも含むこととする。</p> <p>ただし、放射線管理施設の換気設備においては、事故時において公衆並びに中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の従事者等の放射線障害の防止の機能として必要なもので他の設備に属さないものとする。</p> <p>本流が流れる箇所の管継手も主配管とし、要目表に記載する必要があるが、クラス3管、重大事故等クラス3管又は発電用火力設備に関する技術基準を定める省令（平成9年通商産業省令第51号。以下「火力省令」という。）を準用する管に接続する管継手であって、JIS規格若しくは設計・建設規格に適合し、管と同等以上の肉厚を有するもの又はそれらと同等の保安水準の確保が達成できるものにあつては、要目表への記載を必要としないこととする。</p> <p>また、クラス1管、クラス2管、重大事故等クラス1管又は重大事故等クラス2管であつて、母管から分岐する主配管に接続するための管台については、要目表に明記することとする。</p> <p>テストライン、ミニマムフローライン、バイパスライン（沸騰水型発電用原子炉施設に係るタービンバイパスラインは除く。）、循環ライン（容器の攪拌を目的とするライン）、ドレンライン、ベントライン及び計装ラインは主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため主配管にはならないが、主配管からの分岐部は主配管の管台として必要に応じて評価対象となるほか、系統図において必要な仕様（外径、厚さ及び材料等）を記載することとする。</p>	<p>(個別機器等事項)</p> <p>A. 主配管</p> <p>通常運転状態、工学的安全施設の作動状態又は重大事故等時においてその配管が属する系統に求める主たる機能を果たすために本流が流れる配管をいう。液体廃棄物の移送配管のように、流体が常時流れないものも含むこととする。</p> <p>本流が流れる箇所の管継手も主配管とし、仕様表に記載する必要があり、レベル1管、レベル2管、重大事故等対処設備の管であつて、母管から分岐する主配管に分岐する主配管に接続するための管台については、仕様表に明記することとする。</p> <p>また、レベル3管又は〇〇のものにあつては、系統図で表現することとし、仕様表への記載を必要としないこととする。</p> <p>テストライン、ミニマムフローライン、バイパスライン、循環ライン（容器の攪拌を目的とするライン）、ドレンライン、ベントライン及び計装ラインは主たる機能を果たすために本流が流れる配管ではないため主配管にはならないが、主配管からの分岐部は主配管の管台として必要に応じて評価対象となるほか、系統図において必要な仕様（外径、厚さ及び材料等を記載することとする。</p>		

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>B. 主要弁 主配管に施設する弁のうち、「原子炉冷却材圧力バウンダリの隔離弁」、「原子炉非常停止信号又は工学的安全施設等起動（作動）信号により直接作動する自動操作弁（原子炉格納容器バウンダリの隔離弁を含む。）」及び「加圧水型発電用原子炉施設の主蒸気逃がし弁（設置許可基準規則第2条第2項第14号の重大事故等対処設備として最終的な熱の逃がし場へ輸送する設備として機能するもの）」をいう。</p> <p>C. 安全弁及び逃がし弁 通常運転状態、工学的安全施設の作動状態又は重大事故等対処設備の作動状態において、容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁又は逃がし弁をいう。</p> <p>D. フィルター 規則別表第2において「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するものに限る。」又は「従事者等の放射線防護を目的として設置するものに限る。」とされており、気体状の放射性ヨウ素を除去するよう素（チャコール）フィルター及び放射性微粒子を除去する微粒子（高性能粒子）フィルターを記載する必要がある。 「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」としては、環境へ排気することを想定した系統（循環運転が基本であっても排気筒等へ接続する排気系統を有するものを含む。）で、放射性物質の放出を抑制、低減、又は除去するために設置するものとする。ただし、「従事者等の放射線防護を目的として設置するもの」として給気側に設置するものは「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」には含めない。</p> <p>E. 原子炉冷却材圧力バウンダリ及び原子炉格納容器バウンダリ 原子炉冷却材圧力バウンダリについては技術基準規則に定めるものとし、原子炉格納容器バウンダリについては、原子炉冷却材圧力バウンダリ、原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程（JEAG4602-2004日本電気協会）に定めるものをいう。</p>	<p>B. 安全弁及び逃し弁 通常運転状態、工学的安全施設の作動状態または重大事故等対処設備の作動状態において、容器又は主配管の過圧破損を防止するために設置する安全弁又は逃し弁をいう。</p> <p>C. フィルタ 「環境への放射性物質の放出量を合理的に達成できる限り低くする。」目的で、気体状の放射性ヨウ素を除去するよう素フィルタ、放射性微粒子を除去する高性能粒子フィルタ及びミストフィルタを記載する必要がある。 「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」としては、環境へ排気することを想定した系統（循環運転が基本であっても排気筒等へ接続する排気系統を有するものを含む。）で、放射性物質の放出を抑制、低減、又は除去するために設置するものとする。ただし、「従事者等の放射線防護を目的として設置するもの」として給気側に設置するものは「公衆の放射線障害の防止を目的として設置するもの」には含めない。</p>		<p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p> <p>・発電炉固有の設備であるため、記載しない。</p>

発電炉工認手続きガイド及び作成要領を踏まえた当社施設の設工認作成要領【仕様表の作成要領】
 <比較検討>

発電炉 工認手続きガイド	再処理施設等 設工認作成要領 (案)	発電炉 工認作成要領	備考
<p>F. 非常用のもの</p> <p>規則別表第1又は別表第2の原子炉冷却系統施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他発電用原子炉の附属施設の非常用電源設備に記載されており、設計基準事故時に機能が要求される機器等にあつては施設ごとに以下のものをいう。また、重大事故等対処設備を構成する機器等も含むものとする。 (下表省略)</p> <p>(個別施設事項) (以降、施設名を記載し、文章は省略)</p> <p>G. 原子炉本体 H. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 I. 原子炉冷却系統施設 J. 計測制御系統施設 K. 放射性廃棄物の廃棄施設 L. 放射線管理施設 M. 原子炉格納施設 N. その他発電用原子炉の附属施設</p>	<p>D. 非常用のもの</p> <p>その他再処理施設の附属施設の電気設備のうち、非常用電源設備に属するもの(非常用ディーゼル発電機、非常用無停電電源装置、非常用直流電源設備、非常用母線等)及び使用済燃料受入れ施設及び貯蔵施設、再処理設備本体、製品貯蔵施設、計測制御系統施設、放射線管理施設及びその他再処理施設の附属施設のうち、設計基準事故時等において非常用電源設備からの給電を必要とする設備をいう。また、重大事故等対処設備を構成する機器等も含むものとする。</p>		<p>・仕様表作成に関連しないため、記載しない。</p>

仕様表の記載項目 (機種区分: 建物・構築物)

既設工認		仕様表項目案				発電炉工認							
d. 設計条件及び仕様													
名 称		変更前				変更前							
ガラス固化体貯蔵建屋		変更後				変更後							
設計条件	耐震クラス	名称		貯蔵区域しゃへい ¹⁾		名称		原子炉建屋原子炉棟*1		原子炉建屋原子炉棟*7			
	放射線防護 (しゃへい体の材料及び寸法)	〇〇	耐震クラス	二	S ²⁾		種類 (主要構造)	二	鉄筋コンクリート造 (屋根は鉄骨構造)		〇〇		
設計仕様	基礎及び構造の種類	〇〇	種類 (主要構造)		二	鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨鉄筋 コンクリート造及び鉄骨造)		設計気密度	%/d	〇〇			
			主要寸法	〇〇	主要寸法	壁厚さ	東壁	mm	205 ¹⁾		たて×横	mm	〇〇
	西壁	mm					195 ¹⁾		高さ	mm	〇〇		
	南壁	mm					185 ¹⁾		東壁	mm	〇〇		
	北壁	mm					205 ¹⁾			西壁	mm	〇〇	
	天井	mm					190 ¹⁾			南壁	mm	〇〇	
北壁	mm	〇〇		北壁			mm	〇〇					
主要材料	〇〇	主要材料		二	鉄筋コンクリート及び鋼材		材料	二	鉄筋コンクリート及び 鋼材*5				
添付図 (建物各階平面図, 建物断面図)	〇〇	個数		二	1 ¹⁾		個数	二	1*6				
注記 * ガラス固化体貯蔵建屋は、Aクラスの構築物を有しているため、Aクラスの施設に適用される地震力に対して耐えるように設計する。 また、ガラス固化体貯蔵建屋は、Aクラスの設備を内蔵しているため、基準地震動S ₁ で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。		注記 1): 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「I-3 放射線による被ばくの防止に関する計算書」による。 2): 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は平成4年7月6日付け4安第252号にて認可された設工認申請書の添付書類「II-8 申請設備に係る耐震設計の基本方針」による。				注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉建屋[原子炉棟(2次格納施設), 付属棟]」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には〇〇と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年4月9日付け47公第12076号にて認可された工事計画書の添付図面「第3-2 図 原子炉建物耐力壁断面リスト (No.1)」, 「第3-3 図 原子炉建物 耐力壁断面リスト (No.2)」による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鋼材: JIS G 3101一般構造用圧延鋼材 JIS G 3106溶接構造用圧延鋼材, 鉄筋: JIS G 3112鉄筋コンクリート用棒鋼, セメント: JIS R 5210普通ポルトランドセメントおよび中庸熟セメント JIS R 5213フライアッシュセメント, 骨材: 天然砂および川砂利」と記載。 *6: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *7: 圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス再循環系, 非常用ガス処理系, 水素濃度抑制系) と兼用する。							
		発電炉に記載がある「設計気密度」は居住性に係る要求事項であるため、廃棄物管理施設の建物には適用しない。											

表中の「〇〇」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 容器 (常設/可搬))

(円筒形タンク2 (デミスタを含む))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認								
設計条件	名称	-	鹿樹脂貯槽 A, B (名称	-	〇〇	主要寸法	種	類	-	変更前	変更後				
	種類	-	〇〇	種類	-	〇〇		復水脱塩系樹脂貯槽 ^{*1}	たて置円筒形 ^{*2}							
	機器の種類	-	〇〇	機器の種類	-	〇〇		容	量	L/個	〔 〕 (6100 ^{*3})	(陽イオン、陰イオン樹脂)				
	標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇	核的制限値	最大厚み		mm	〇〇	最高使用圧力	MPa	0.69 ^{*4}				
		α	α Bq/cm ³	〇〇		耐震クラス (重大事故等 対処設備の分類)		-	-	〇〇 (〇〇)	最高使用温度	℃	60			
		U	g/l	〇〇				標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇	胴内径 ^{*5}	mm	2200 ^{*3}		
		Pu	g/l	〇〇					α	α Bq/cm ³	〇〇	胴板厚さ ^{*6}	mm	〔 〕 (12 ^{*3})		
	耐震クラス	-	〇〇	U	g/l				〇〇	鏡板厚さ (上部鏡板) ^{*8}	mm	〔 〕 (12 ^{*3})				
	流体の種類	-	〇〇	PU	g/l	〇〇			鏡板の形状に係る寸法 (上部鏡板)	mm	2200 ^{*3, *7} (鏡板長径) 550 ^{*3, *7} (鏡板短径の2分の1)					
	容量	m ³ /個	〇〇	流体の種類	-	〇〇		鏡板厚さ (下部鏡板) ^{*9}	mm	〔 〕 (19 ^{*3})						
	最高使用圧力	kPa	〇〇	容量	m ³ /個	〇〇		鏡板の形状に係る寸法 (下部鏡板)	mm	2200 ^{*3, *7} (鏡板長径) 550 ^{*3, *7} (鏡板短径の2分の1)						
	最高使用温度	℃	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇		鏡窓管台外径	mm	430 ^{*3, *7}						
	仕様寸法	胴内径	mm	〇〇	最高使用温度	℃		〇〇	鏡窓管台厚さ	mm	〔 〕 (45 ^{*3, *7})					
		胴板厚さ	mm	〇〇	槽長さ	mm		〇〇	陽イオン樹脂入口管台外径	mm	89.1 ^{*3, *7}					
		鏡板厚さ	mm	〇〇	総幅 (内側)	mm		〇〇	陽イオン樹脂入口管台厚さ	mm	〔 〕 (7.6 ^{*3, *7})					
屋根板厚さ		mm	〇〇	側壁板厚さ	mm	〇〇	樹脂出口管台外径	mm	114.3 ^{*3, *7}							
全高		mm	〇〇	ふた板厚さ	mm	〇〇	樹脂出口管台厚さ	mm	〔 〕 (8.6 ^{*3, *7})							
主要材料	胴板	-	〇〇	そこ板厚さ	mm	〇〇	マンホール外径	mm	468 ^{*3, *7}							
	鏡板	-	〇〇	全長	mm	〇〇	マンホール厚さ	mm	〔 〕 (9 ^{*3, *7})							
	屋根板	-	〇〇	側壁板	-	〇〇	マンホール平板厚さ	mm	〔 〕 (35 ^{*3, *7})							
個数	-	〇〇	ふた板	-	〇〇	高さ	mm	4651 ^{*3, *10}								
構造図: 第3.2.3.4.2-1図及び第3.2.3.4.2-2図に示す。				底板	-	〇〇	胴板 ^{*11}	-	SB42 ^{*12}							
				個数	-	〇〇	上部鏡板 ^{*13}	-	SB42 ^{*14}							
				系統名 (ライン名)	-	〇	下部鏡板 ^{*13}	-	SB42 ^{*14}							
				設置床	-	〇	マンホール	-	SB42 ^{*7}							
				溢水防護上の区画番号	-	〇	マンホール平板	-	SB42 ^{*7}							
				溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇	個数	-	1							

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「樹脂貯槽」と記載。
*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦型円筒圧力式」と記載。

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認
		<p>*3: 公称値を示す。</p> <p>*4: S I 単位に換算したもの。</p> <p>*5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。</p> <p>*6: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。</p> <p>*7: 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 8 月 30 日付け建発第 98 号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-4 復水脱塩系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-4-4 樹脂貯槽 (Ⅲ-1-4-5)」による。</p> <p>*8: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「焼板厚 (上部)」と記載。</p> <p>*9: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「焼板厚 (下部)」と記載。</p> <p>*10: 記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚から樹脂入口管台までの高さである「5573」と記載。記載内容は、設計図書による。</p> <p>*11: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。</p> <p>*12: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SB 4 2 <input type="text"/> <input type="text"/>」と記載。</p> <p>*13: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「焼板」と記載。</p> <p>*14: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SB 4 2 <input type="text"/> <input type="text"/>」と記載。</p> <p>*15: 記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>

仕様表の記載項目 (機種区分: ミキサ・セトラ①)

○ミキサ・セトラ (核的制限値あり、ジャケット部なし)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認				
(1/2)												
名称		-	プルトニウム洗浄器	名称		-	〇〇 (機器番号)	該当する設備なし。				
種類		-	ミキサ・セトラ	種類		-	ミキサ・セトラ					
機器の種類		-	〇〇	機器の種類		-	〇〇					
臨界管理		-	〇〇	臨界管理		-	〇〇					
核的制限値	本体	最大液厚み	mm	〇〇	核的制限値	最大液厚み	mm					〇〇
	本体	中性子吸収材最小厚み (カドミウム)	mm	〇〇		プルトニウム最大濃度	g・Pu/l					〇〇
面間最小距離	TBP洗浄器/ プルトニウム洗浄器	TBP洗浄器	mm	〇〇	面間最小距離	補助抽出機/ TBP洗浄器	mm					〇〇
		〇〇										
標準濃度	水相	βγ	Bq/cm ³	〇〇	水相	βγ	Bq/cm ³					〇〇
		α	α Bq/cm ³	〇〇		α	α Bq/cm ³					〇〇
		U	g/l	〇〇		U	g/l	〇〇				
	有機相	βγ	Bq/cm ³	〇〇	有機相	βγ	Bq/cm ³	〇〇				
		α	α Bq/cm ³	〇〇		α	α Bq/cm ³	〇〇				
		U	g/l	〇〇		U	g/l	〇〇				
耐震クラス	-	〇〇	耐震クラス	-	〇〇							
流体の種類	-	〇〇	流体の種類	-	〇〇							
容量	m ³ /個	〇〇	容量	m ³ /個	〇〇							
最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇							
最高使用温度	℃	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇							
仕様	たて		mm	〇〇	たて		mm	〇〇				
	横		mm	〇〇	横		mm	〇〇				
	高さ	深さ	mm	〇〇	高さ	深さ	mm	〇〇				
		底板厚さ	mm	〇〇		底板厚さ	mm	〇〇				
	せき高さ		mm	〇〇	せき高さ		mm	〇〇				
	側壁板厚さ		mm	〇〇	側壁板厚さ		mm	〇〇				
	ミキサ蓋ふた板厚さ		mm	〇〇	ミキサ蓋ふた板厚さ		mm	〇〇				
	セトラ蓋ふた板厚さ (内側部/外側部)		mm	〇〇	セトラ蓋ふた板厚さ (内側部/外側部)		mm	〇〇				
	中性子吸収材厚さ		mm	〇〇	中性子吸収材厚さ		mm	〇〇				
	全高		mm	〇〇	全高		mm	〇〇				

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認							
仕様	主要材料	側壁板	-	〇〇	(つづき)	たて		mm	〇〇	仕様	主要寸法	横		mm	〇〇
		ふた板	-	〇〇		高さ	深さ	mm	〇〇						
		底板	-	〇〇			底板厚さ	mm	〇〇						
		中性子吸収材	-	〇〇		せき高さ	mm	〇〇							
		中性子減速材	-	〇〇		側壁板厚さ	mm	〇〇							
	段数	-	〇〇	ミキサ室ふた板厚	mm	〇〇									
	個	個数	-	〇〇	セトラ室ふた板厚 (内側部/外側部)	mm	〇〇								
		原動機の種類	-	〇〇	中性子吸収材厚さ (カドミウム)	mm	〇〇								
	ミキサ	個数	-	〇〇	全高	mm	〇〇								
		個数	-	〇〇	側壁板	-	〇〇								
<p style="text-align: right;">(2/2)</p> <p>特記事項</p> <p>(1) 電気設備に関する技術基準を定める省令第10条及び第11条に準拠した接地網に接続する。 (2) 下流工程(臨界安全管理外であるウラン濃縮工程の第4段)の有機相フルトニウム濃度を監視すること、フルトニウム洗浄特を出る有機相中のフルトニウム濃度を有意量以下に管理する。 (3) 中性子減速材の高密度ポリエチレンは中性子吸収材のカドミウムとともにステンレス鋼で被覆する。</p> <p>構造図： 第3.2.4.2-14図に示す。</p>				仕様	主要材料	ふた板	-	〇〇	主要寸法	側壁板	-	〇〇			
						底板	-	〇〇		ふた板	-	〇〇			
						中性子吸収材	-	〇〇		底板	-	〇〇			
						中性子減速材	-	〇〇		中性子吸収材	-	〇〇			
						段数	-	〇〇		中性子減速材	-	〇〇			
						個	個数	-	〇〇	段数	-	〇〇			
							原動機の種類	-	〇〇	個数	-	〇〇			
						ミキサ	個数	-	〇〇	原動機の種類	-	〇〇			
							個数	-	〇〇	個数	-	〇〇			

仕様表の記載項目 (機種区分: ミキサ・セトラ②)

○ミキサ・セトラ (核的制限値なし、ジャケット部なし)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
(1/2)								該当する設備なし。			
名 称	-	ウラン逆抽出器		名 称	-	〇〇 (機器番号)					
種 類	-	ミキサ・セトラ		種 類	-	ミキサ・セトラ					
設 計 条 件	機 器 の 種 類	-	〇〇	設 計 条 件	機 器 の 種 類	-	〇〇				
	水 相	$\beta\gamma$	Bq/cm ³		〇〇	水 相	$\beta\gamma$			Bq/cm ³	〇〇
		α	α Bq/cm ³		〇〇		α			α Bq/cm ³	〇〇
		U	g/l		〇〇		U			g/l	〇〇
		Pu	g/l		〇〇		Pu			g/l	〇〇
	有 機 相	$\beta\gamma$	Bq/cm ³		〇〇	有 機 相	$\beta\gamma$			Bq/cm ³	〇〇
		α	α Bq/cm ³		〇〇		α			α Bq/cm ³	〇〇
		U	g/l		〇〇		U			g/l	〇〇
		Pu	g/l		〇〇		Pu			g/l	〇〇
	耐 震 ク ラ ス	-	〇〇		耐 震 ク ラ ス	-	〇〇				
流 体 の 種 類	-	〇〇		流 体 の 種 類	-	〇〇					
容 量	m ³ /個	〇〇		容 量	m ³ /個	〇〇					
最 高 使 用 圧 力	MPa	〇〇		最 高 使 用 圧 力	MPa	〇〇					
最 高 使 用 温 度	℃	〇〇		最 高 使 用 温 度	℃	〇〇					

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																			
(2/2)				(つづき)																							
仕様	主要寸法	た	て	mm		〇〇	仕様	主要寸法	た	て	mm		〇〇														
		横		mm		〇〇			横		mm		〇〇														
		高さ	深	さ	mm				〇〇	高さ	深	さ	mm		〇〇												
			底	板	厚	さ			mm			底	板	厚	さ	mm		〇〇									
		側		壁	板	厚			さ	mm		〇〇	せ		き	高	さ	mm		〇〇							
		ミ		キ	サ	室			ふ	た	板	厚	さ	mm		〇〇	側		壁	板	厚	さ	mm		〇〇		
		セ		ト	ラ	室			ふ	た	板	厚	さ	mm		〇〇	ミ		キ	サ	室	ふ	た	板	厚	さ	mm
	(内側部/外側部)		厚		mm		〇〇	(内側部/外側部)		厚		mm		〇〇	セ		ト	ラ	室	ふ	た	板	厚	さ	mm		〇〇
			全		高	mm				〇〇	中		性	子	吸	取	材	厚	さ	mm		〇〇					
	主要材料	側		壁	板	-	〇〇	主要材料	側		壁	板	-	〇〇	段		数	-	〇〇								
		ふ		た	板	-	〇〇		ふ		た	板	-	〇〇	個		数	-	〇〇								
		底		板	-	〇〇	底		板	-	〇〇																
	ミキサ	原		動	機	の	種	類	-	〇〇	原		動	機	の	種	類	-	〇〇								
		個		数	-	〇〇	個		数	-	〇〇																
	特記事項				〇〇																						
構造図：3.2.3:2-7図に示す。																											

仕様表の記載項目 (機種区分: ミキサ・セトラ③)

○ミキサ・セトラ (核的制限値なし、ジャケット部あり)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
(1/2)													
名 称		-	第1洗浄器	名 称		-	〇〇 (機器番号)	該当する設備なし。					
種 類		-	ミキサ・セトラ	種 類		-	ミキサセトラ						
機器の種類	本 体	-	〇〇	機器の種類	本 体	-	〇〇						
	ジャケット部	-	〇〇		ジャケット部	-	〇〇						
標準濃度	水相	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇	標準濃度	水相	$\beta\gamma$					Bq/cm ³	〇〇
		α	α Bq/cm ³	〇〇			α					α Bq/cm ³	〇〇
		U	g/l	〇〇			U					g/L	〇〇
		Pu	g/l	〇〇			Pu					g/L	〇〇
		$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇			$\beta\gamma$					Bq/cm ³	〇〇
有機相		α	α Bq/cm ³	〇〇	有機相		α					α Bq/cm ³	〇〇
		U	g/l	〇〇			U	g/L	〇〇				
		Pu	g/l	〇〇			Pu	g/L	〇〇				
耐 震 ク ラ ス		-	〇〇	耐 震 ク ラ ス		-	〇〇						
流体の種類	本 体	-	〇〇	流体の種類		本 体	-	〇〇					
	ジャケット部	-	〇〇	ジャケット部		ジャケット部	-	〇〇					
容 量		m ³ /個	〇〇	容 量		m ³ /個	〇〇						
本体	最高使用圧力	MPa	〇〇	本体	最高使用圧力	MPa	〇〇						
	最高使用温度	℃	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇						
ジャケット部	最高使用圧力	MPa	〇〇	ジャケット部	最高使用圧力	MPa	〇〇						
	最高使用温度	℃	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇						

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
(2/2)				(つづき)									
仕様寸法	本体	たて	mm	〇〇	主要寸法	たて	mm	〇〇	仕様	本体	横	mm	〇〇
		高さ	mm	〇〇		側壁板厚さ	mm	〇〇					
		底板厚さ	mm	〇〇			ミキサ室ふた板厚さ	mm			〇〇		
		側壁板厚さ	mm	〇〇			セトラ室ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm			〇〇		
		ミキサ室ふた板厚さ	mm	〇〇		高さ	深さ	mm			〇〇		
		セトラ室ふた板厚さ (内側部/外側部)	mm	〇〇			底板厚さ	mm			〇〇		
		ジャケ	側壁板厚さ	mm		〇〇	ジャケ	側壁板厚さ			mm	〇〇	
	ット	底板厚さ	mm	〇〇	ット部	底板厚さ		mm		〇〇			
	ミキサ・セトラ全高		mm	〇〇	ミキサセトラ全高		mm	〇〇					
	全高		mm	〇〇	全高		mm	〇〇					
	主要材料	本体	側壁板	-	〇〇	主要材料	本体	側壁板		-	〇〇		
			ふた板	-	〇〇			ふた板		-	〇〇		
		底板	-	〇〇	底板			-		〇〇			
		ジャケ	側壁板	-	〇〇		ジャケット部	側壁板		-	〇〇		
	ット	底板	-	〇〇	底板	-		〇〇					
個数		-	〇〇	個数		-	〇〇						
ミキサ	原動機の種類		-	〇〇	ミキサ	原動機の種類		-	〇〇				
	個数		-	〇〇		個数		-	〇〇				
特記事項				〇〇									
構造図：第3.2.6.2.1.1-1図に示す。													
注記 1) : B* は溶液の放射線分解により発生する水素の爆発を適切に防止するための水素爆発抑制能を維持するため、撹拌速度上A sクラスとする能投を示す。													
2) : 単位は (kg/cf)。													

仕様表の記載項目 (機種区分：一般のガス系の塔)

既設工認			仕様表項目案			発電炉工認					
設計 条件	名称	ルテニウム吸着塔A, B	名称	—	〇〇 (機器番号)						
	種類	〇〇	種類	—	〇〇						
	機器の種類	機器の種類	〇〇	機器の種類	—				〇〇		
		標準濃度	$\beta\gamma$ Bq/cm ³ [normal]		$\beta\gamma$ Bq/cm ³				〇〇		
			α Bq/cm ³ [normal]		α Bq/cm ³				〇〇		
	標準濃度	PU g/m ³ [normal]	U g/l	〇〇							
	標準濃度	PU g/l	〇〇								
	耐震クラス	〇〇	耐震クラス	—	〇〇						
	流体の種類	〇〇	流体の種類	—	〇〇						
	最高使用圧力	kPa	最高使用圧力	MPa	〇〇						
	最高使用温度	℃	最高使用温度	℃	〇〇						
	容量	容量	m ³ /h/個[normal]	〇〇	容量				m ³ [normal]/h/個	〇〇	
		処理除去効率	%	〇〇	最高使用圧力				MPa	〇〇	
		主要寸法	胴内径	mm	〇〇				最高使用温度	℃	〇〇
			胴板厚さ	mm	〇〇				主要寸法	胴内径	mm
鏡板厚さ			mm	〇〇	胴板厚さ	mm	〇〇				
平板厚さ			mm	〇〇	鏡板厚さ	mm	〇〇				
全高	mm	〇〇	全高	mm	〇〇						
主要材料	胴板	〇〇	主要材料	胴板	—	〇〇					
	鏡板	〇〇		鏡板	—	〇〇					
	平板	〇〇	個数	—	—	〇〇					
	フランジ	〇〇		個数	—	〇〇					
	ろ材	〇〇									

構造図：第3.2.1.3-7図に示す。
注記1)：単位は(kg/cm²)

仕様表の記載項目 (機種区分: 洗浄塔)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認						
設 計 条 件	名 称		—	洗淨塔		名 称		—	〇〇 (機器番号)					
	種 類		—	〇〇		種 類		—	〇〇					
	機 器 の 種 類	機器の種類		—	〇〇		機器の種類		—	〇〇				
		廃ガス	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]	〇〇		標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇				
			α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇			α	α Bq/cm ³	〇〇				
			Pu	g/m ³ [normal]	〇〇			U	g/l	〇〇				
		洗淨液	$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇			PU	g/l	〇〇				
			α	α Bq/cm ³	〇〇		耐震クラス		—	〇〇				
	Pu		g/l	〇〇		流体の種類		—	〇〇					
	耐震クラス		—	〇〇		容 量		m ³ [normal]/h/個	〇〇					
	流体の種類		—	〇〇		最高使用圧力		MPa	〇〇					
	容 量		m ³ /h/個[normal]	〇〇		最高使用温度		℃	〇〇					
	最高使用圧力		kPa	〇〇		設 計 条 件	上部胴内径		mm	〇〇				
	最高使用温度		℃	〇〇			主 要 寸 法	本体胴内径		mm	〇〇			
	上部胴内径		mm	〇〇				上部胴板厚さ		mm	〇〇			
本体胴内径		mm	〇〇		上部鏡板厚さ			mm	〇〇					
上部胴板厚さ		mm	〇〇		下部胴内径			mm	〇〇					
本体胴板厚さ		mm	〇〇		下部胴板厚さ			mm	〇〇					
上部胴上部鏡板厚さ		mm	〇〇		下部鏡板厚さ			mm	〇〇					
円すい胴板厚さ		mm	〇〇		全 高			mm	〇〇					
本体胴下部鏡板厚さ		mm	〇〇		主 要 材 料			上部胴板		—	〇〇			
全 高		mm	〇〇				上部胴板		—	〇〇				
上部胴上部鏡板		—	〇〇				円すい胴板		—	〇〇				
上部胴板		—	〇〇				本体胴板		—	〇〇				
円すい胴板		—	〇〇		本体胴下部鏡板		—	〇〇						
本体胴板		—	〇〇		個 数		—	〇〇						
本体胴下部鏡板		—	〇〇		個 数		—	〇〇						
個 数		—	〇〇		個 数		—	〇〇						

構造図: 第3.2.1.4.8-1図に示す。
注記1): 単位は (kg/cm³)

仕様表の記載項目 (機種区分: 凝集器)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認		
(1/2)								申請対象なし		
設計	名称		—	凝縮器 A, B ¹⁾						
	種類		—	〇〇						
	機器の種類	管側	—	〇〇						
		胴側	—	〇〇						
	標準濃度	廃ガス	$\beta\gamma$	Bq/cm ³ [normal]	〇〇					
			α	α Bq/cm ³ [normal]	〇〇					
			U	g/m ³ [normal]	〇〇					
		回収硝酸	Pu	g/m ³ [normal]	〇〇					
			Kr-85	Bq/cm ³ [normal]	〇〇					
			$\beta\gamma$	Bq/cm ³	〇〇					
	耐震クラス	α	α Bq/cm ³	〇〇						
		Pu	g/l	〇〇						
	耐震クラス	—		〇〇						
		管側	流体の種類	—	〇〇					
	胴側	流体の種類	—	〇〇						
	容量 (設計熱交換量)	kW/個		〇〇						
	管側	最高使用圧力	MPa	〇〇						
		最高使用温度	℃	〇〇						
		胴側	最高使用圧力	kPa	〇〇					
			最高使用温度	℃	〇〇					
伝熱面積	m ² /個		〇〇							
仕様寸法	管側	鏡内径	mm	〇〇						
		鏡板厚さ	mm	〇〇						
	胴側	胴内径	mm	〇〇						
		胴板厚さ	mm	〇〇						
	管板厚さ	mm		〇〇						
	伝熱管外径	mm		〇〇						
	伝熱管厚さ	mm		〇〇						
	全高	mm		〇〇						
材料	管側鏡板	—		〇〇						
	胴側鏡板	—		〇〇						
	管板	—		〇〇						
	伝熱管	—		〇〇						
個数	—		〇〇							
取付箇所	系統名 (ライン名)		—		〇〇					
	設置床		—		〇〇					
	溢水防護上の区画番号		—		〇〇					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—		〇〇					
(2/2)										
仕様	材料	管側鏡板	—	〇〇						
		胴側鏡板	—	〇〇						
	個数	管板	—	〇〇						
		伝熱管	—	〇〇						
個数	—		〇〇							

構造図: 第3.2.1.1 - 1 図に示す。

注記 1): NO_x 吸収塔 A, B () との合計値。
 NO_x 吸収塔 A, B は() , である。

2): 単位は (kcal/h/個)

3): 単位は (kg/cm²)

仕様表の記載項目 (機種区分: 蒸発缶①-1)

○サーモサイフォン型蒸発焔 (加熱部)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認							
(1/2)															
名称		—		蒸発缶 A (加熱部)		—		〇〇 (機器番号)							
種類		—		〇〇		—		〇〇							
機器の種類	管側	—		〇〇		機器の種類	管側	—		〇〇					
	胴側	—		〇〇			胴側	—		〇〇					
標準濃度	$\beta\gamma$	Bq/cm ³		〇〇		臨界管理				〇〇					
	α	α Bq/cm ³		〇〇		核的制限値・最大内径・加熱部		mm		〇〇					
	PU	g/l		〇〇		標準濃度		$\beta\gamma$	Bq/cm ³		〇〇				
耐震クラス		—		〇〇		標準濃度		α	α Bq/cm ³		〇〇				
管側	流体の種類	—		〇〇		標準濃度		U	g/L		〇〇				
	胴側	流体の種類	—		〇〇		標準濃度		PU	g/L		〇〇			
容量	容量	容量	m ³ /個		〇〇		耐震クラス		—		〇〇				
		処理容量	m ³ /h/個		〇〇		流体の種類		管側	—		〇〇			
		設計熱交換量	kW/個		〇〇		流体の種類		胴側	—		〇〇			
管側	最高使用圧力	MPa		〇〇		容量		容量	m ³ /個		〇〇				
	最高使用温度	℃		〇〇		容量		処理容量	m ³ /h/個		〇〇				
胴側	最高使用圧力	MPa		〇〇		容量		設計熱交換量	kW/個		〇〇				
	最高使用温度	℃		〇〇		管側		最高使用圧力	MPa		〇〇				
伝熱面積		m ² /個		〇〇		管側		最高使用温度	℃		〇〇				
						胴側		最高使用圧力	MPa		〇〇				
						胴側		最高使用温度	℃		〇〇				
						伝熱面積		伝熱面積	m ² /個		〇〇				

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認						
(2/2)				(つづき)										
仕様	主要寸法	管側	胴内径	mm	〇〇	管側	胴内径	mm	〇〇	主要寸法	胴板厚さ	mm	〇〇	
			円すい胴板厚さ	mm	〇〇		鏡板厚さ	mm	〇〇					
			鏡板厚さ	mm	〇〇		胴内径	mm	〇〇					
		胴側	胴内径	mm	〇〇	胴側	胴板厚さ	mm	〇〇		管側	胴内径	mm	〇〇
			胴板厚さ	mm	〇〇		鏡板厚さ	mm	〇〇			胴板厚さ	mm	〇〇
			ペローズ厚さ	mm	〇〇		鏡板厚さ	mm	〇〇			管板厚さ	mm	〇〇
		管板	管板厚さ	mm	〇〇	管板	管板厚さ	mm	〇〇		伝熱管	伝熱管外径	mm	〇〇
			胴板厚さ	mm	〇〇		伝熱管厚さ	mm	〇〇			伝熱管厚さ	mm	〇〇
			伝熱管外径	mm	〇〇		全高	mm	〇〇			全高	mm	〇〇
			伝熱管厚さ	mm	〇〇		管側	胴板	-			〇〇	管側	鏡板
	主要材料	管側	円すい胴板	-	〇〇	管側	鏡板	-	〇〇	主要材料	胴側	胴板	-	〇〇
			鏡板	-	〇〇		胴側	鏡板	-		〇〇	管板	-	〇〇
		胴側	胴板	-	〇〇	胴側	ペローズ	-	〇〇		伝熱管	-	〇〇	
			ペローズ	-	〇〇		個数	-	〇〇		個数	-	〇〇	
		管板	-	〇〇	管板	-	〇〇	個数	-		〇〇			
		伝熱管	-	〇〇	伝熱管	-	〇〇							
	個数	-	〇〇											
	特記事項		〇〇											
	構造図：第3.2.6.1.1-3図に示す。 注記 1)：単位は(kcal/h/個)。 2)：単位は(kg/cm)。 3)：単位は(kPa)。 4)：添付書類V-1別添5 腐食代に関する設計の基本方針(第4回申請)に示すSA級。													

仕様表の記載項目 (機種区分: 蒸発缶①-2)

○サーモサイフォン型蒸発缶 (気液分離部)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
名称		—	蒸発缶A (気液分離部)	名称		—	〇〇 (機器番号)						
種類		—	〇〇	種類		—	〇〇						
設計条件	機器の種類	蒸発缶	—	〇〇	機器の種類	気液分離部	—	〇〇					
		上部連絡管	—	〇〇		液抜き部	—	〇〇					
		下部連絡管	—	〇〇		上部連絡管	—	〇〇					
	βγ	Bq/cm ²	〇〇	下部連絡管		—	〇〇						
	標準濃度	α	α Bq/cm ²	〇〇	臨界管理		—	〇〇					
		PU	g/l	〇〇	核的制限値	臨界管理	気液分離部下部, 液抜き部	mm	〇〇				
	耐震クラス	—	〇〇	気液分離部上部			mm	〇〇					
	流体の種類	—	〇〇	標準濃度	βγ	Bq/cm ³	〇〇						
	容量	設計蒸発量	kg/h/個		〇〇	α	α Bq/cm ³	〇〇					
		処理容量	m ³ /h		〇〇	U	g/l	〇〇					
最高使用圧力	MPa	〇〇	PU		g/l	〇〇							
最高使用温度	℃	〇〇	耐震クラス		—	〇〇							
仕様	主要寸法	本体胴内径	mm	〇〇	流体の種類	気液分離部	—	〇〇					
		本体胴板厚さ	mm	〇〇		液抜き部	—	〇〇					
		本体胴上部鏡板厚さ	mm	〇〇	容量 (設計蒸発量)		kg/h/個	〇〇					
		円すい胴板厚さ	mm	〇〇	気液分離部	最高使用圧力	MPa	〇〇					
		下部胴内径	mm	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇					
		下部胴板厚さ	mm	〇〇	液抜き部	最高使用圧力	MPa	〇〇					
		下部胴下部鏡板厚さ	mm	〇〇		最高使用温度	℃	〇〇					
		全高	mm	〇〇	特記事項		〇〇						
	連絡管	上部連絡管外径	mm	〇〇									
		上部連絡管厚さ	mm	〇〇									
主要材料	気液分離部	本体胴板	—	〇〇									
		本体胴上部鏡板	—	〇〇									
		円すい胴板	—	〇〇									
		下部胴板	—	〇〇									
		下部胴下部鏡板	—	〇〇									
	連絡管	上部連絡管	—	〇〇									
	下部連絡管	—	〇〇										
個数	—	〇〇											

構造図: 第3.2.6.1.1-3図に示す。

注記 1): 添付書類V-1別添5 腐食代に関する設計の基本方針 (第4回申請) に示すSA級。

仕様表の記載項目 (機種区分: ポンプ・圧縮機類 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																					
<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">冷却水循環ポンプA, B, C, D ()</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>定格容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>定格揚程</td> <td>m</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">機</td> <td>主要寸法</td> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>ケーシング</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">特記事項</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図: 第3.2.2.2-3図に示す。</p>				名称	-	冷却水循環ポンプA, B, C, D ()		種類	-	〇〇		設計条件	耐震クラス	-	〇〇		定格容量	m ³ /h/個	〇〇	仕様	定格揚程	m	〇〇	機	主要寸法	全高	mm	〇〇	主要材料	ケーシング	-	〇〇	個数	-	〇〇	特記事項		〇〇		<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">冷却水循環ポンプA, B (機器番号)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">設計条件</td> <td rowspan="10">ポンプ</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td>-</td> <td>〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>核的制限値</td> <td>L</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>定格容量</td> <td>m³/h/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>定格揚程</td> <td>m</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>全高</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>ケーシング</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td rowspan="4">ポンプ</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td rowspan="4">ポンプ</td> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">原動機</td> <td rowspan="4">ポンプ</td> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> </table>				名称	-	冷却水循環ポンプA, B (機器番号)		種類	-	〇〇		設計条件	ポンプ	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇 (〇〇)	核的制限値	L	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	定格容量	m ³ /h/個	〇〇	定格揚程	m	〇〇	主要寸法	全高	mm	〇〇	主要材料	ケーシング	-	〇〇	個数	-	〇〇	仕様	ポンプ	系統名 (ライン名)	-	〇〇	設置床	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	〇〇	取付箇所	ポンプ	種類	-	〇〇	出力	kW/個	〇〇	個数	-	〇〇	取付箇所	-	〇〇	原動機	ポンプ	種類	-	〇〇	出力	kW/個	〇〇	個数	-	〇〇	取付箇所	-	〇〇	<p>3 原子炉冷却材再循環設備に係る次の事項</p> <p>3.1 原子炉冷却材再循環系</p> <p>(1) ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 慣性定数又は回転速度半減時間, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数並びに原動機の種類, 出力及び個数 (インターナルポンプにあっては, 原動機の冷却方法及び定格回転速度を付記すること。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">ポンプ</td> <td>種類</td> <td>再循環系ポンプ*5</td> <td rowspan="14">変更なし</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>うず巻形*1</td> </tr> <tr> <td>揚程</td> <td>8100以上*6 (8100*3)</td> </tr> <tr> <td>慣性定数</td> <td>245.4以上*6 (245.4*3)</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>4.7以上*6 (5*3, *6)</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>11.38*6</td> </tr> <tr> <td>吸込口径</td> <td>302*6</td> </tr> <tr> <td>吐出口径</td> <td>552.45*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシング厚さ</td> <td>552.45*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー厚さ</td> <td>78.8*6 (82.6*3, *6)</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>1168.4*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシング高さ</td> <td>965.2*3, *6</td> </tr> <tr> <td>ケーシング</td> <td>SCS14A相当</td> </tr> <tr> <td>ケーシングカバー</td> <td>SCS14A相当</td> </tr> <tr> <td>スタッドボルト</td> <td>SNB23-4相当</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">原動機</td> <td>種類</td> <td>誘導電動機</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>6711*7</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「たて軸車段うず巻型」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「T/hr」と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ」と記載。 *6: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。 *7: S I 単位に換算したもの。</p>				名称		変更前	変更後	ポンプ	種類	再循環系ポンプ*5	変更なし	容量	うず巻形*1	揚程	8100以上*6 (8100*3)	慣性定数	245.4以上*6 (245.4*3)	最高使用圧力	4.7以上*6 (5*3, *6)	最高使用温度	11.38*6	吸込口径	302*6	吐出口径	552.45*3, *6	ケーシング厚さ	552.45*3, *6	ケーシングカバー厚さ	78.8*6 (82.6*3, *6)	横	1168.4*3, *6	ケーシング高さ	965.2*3, *6	ケーシング	SCS14A相当	ケーシングカバー	SCS14A相当	スタッドボルト	SNB23-4相当	個数	2	原動機	種類	誘導電動機	出力	6711*7	個数	2
名称	-	冷却水循環ポンプA, B, C, D ()																																																																																																																																																																											
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	-	〇〇																																																																																																																																																																										
	定格容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																										
仕様	定格揚程	m	〇〇																																																																																																																																																																										
機	主要寸法	全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																									
	主要材料	ケーシング	-	〇〇																																																																																																																																																																									
	個数	-	〇〇																																																																																																																																																																										
特記事項		〇〇																																																																																																																																																																											
名称	-	冷却水循環ポンプA, B (機器番号)																																																																																																																																																																											
種類	-	〇〇																																																																																																																																																																											
設計条件	ポンプ	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇 (〇〇)																																																																																																																																																																									
		核的制限値	L	〇〇																																																																																																																																																																									
		最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																									
		最高使用温度	℃	〇〇																																																																																																																																																																									
		定格容量	m ³ /h/個	〇〇																																																																																																																																																																									
		定格揚程	m	〇〇																																																																																																																																																																									
		主要寸法	全高	mm	〇〇																																																																																																																																																																								
		主要材料	ケーシング	-	〇〇																																																																																																																																																																								
		個数	-	〇〇																																																																																																																																																																									
		仕様	ポンプ	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																																																																																																																																							
設置床	-			〇〇																																																																																																																																																																									
溢水防護上の区画番号	-			〇〇																																																																																																																																																																									
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-			〇〇																																																																																																																																																																									
取付箇所	ポンプ	種類	-	〇〇																																																																																																																																																																									
		出力	kW/個	〇〇																																																																																																																																																																									
		個数	-	〇〇																																																																																																																																																																									
		取付箇所	-	〇〇																																																																																																																																																																									
原動機	ポンプ	種類	-	〇〇																																																																																																																																																																									
		出力	kW/個	〇〇																																																																																																																																																																									
		個数	-	〇〇																																																																																																																																																																									
		取付箇所	-	〇〇																																																																																																																																																																									
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																																										
ポンプ	種類	再循環系ポンプ*5	変更なし																																																																																																																																																																										
	容量	うず巻形*1																																																																																																																																																																											
	揚程	8100以上*6 (8100*3)																																																																																																																																																																											
	慣性定数	245.4以上*6 (245.4*3)																																																																																																																																																																											
	最高使用圧力	4.7以上*6 (5*3, *6)																																																																																																																																																																											
	最高使用温度	11.38*6																																																																																																																																																																											
	吸込口径	302*6																																																																																																																																																																											
	吐出口径	552.45*3, *6																																																																																																																																																																											
	ケーシング厚さ	552.45*3, *6																																																																																																																																																																											
	ケーシングカバー厚さ	78.8*6 (82.6*3, *6)																																																																																																																																																																											
	横	1168.4*3, *6																																																																																																																																																																											
	ケーシング高さ	965.2*3, *6																																																																																																																																																																											
	ケーシング	SCS14A相当																																																																																																																																																																											
	ケーシングカバー	SCS14A相当																																																																																																																																																																											
スタッドボルト	SNB23-4相当																																																																																																																																																																												
個数	2																																																																																																																																																																												
原動機	種類	誘導電動機																																																																																																																																																																											
	出力	6711*7																																																																																																																																																																											
	個数	2																																																																																																																																																																											

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：ダクト (常設/可搬))

既設工認			仕様表項目案				発電炉工認							
名称	—	主要ダクト(その1)	名称	—	変更前	変更後	変更前*1						変更後	
種類	—	〇〇	種類	—	主要ダクト	変更なし	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外形*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	
設計条件	耐震クラス	—	耐震クラス (重大事故 等対処設備の分類)	—	角ダクト, 丸ダクト	変更なし	中央制御室 ~ 中央制御室換気系 フィルタ 系ファン	0.003 (差圧)	40	762.4×362.4	1.2*2	SPG2	中央制御室換気系	変更なし
	流体の種類	—	流体の種類	—	空気	変更なし				812.4×412.4	1.2*2	SPG2		
仕様	主要寸法 ¹⁾	mm	最高使用圧力	kPa	—	(〇〇 ²⁾)				1582.4×912.4	1.2*2	SPG2		
	板厚	mm	最高使用温度	°C	—	(〇〇 ²⁾)				1802.4×1602.4	1.2*2	SPG2		
	主要材料	—	〇〇	主要寸法 ¹⁾	mm	幅 : 1080~2400 高さ : 950~2700 口径 : φ50~φ2100				462.4×462.4	1.2*2	SPG2		
			仕様	板厚	mm	2.3~6.5				461.6×461.6	0.8*2	SGCC		
			仕様	主要材料	—	SS400, STPG370, SUS304TP				562.4×462.4	1.2*2	SPG2		
							...							

注記 1) : 主要寸法はダクト内側の寸法を示す。

注記 1) : 主要寸法はダクト内側の寸法を示す。
2) : 重大事故時の使用時の値を示す。

注記 *1 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
*2 : 公称値を示す。

仕様表の記載項目 (機種区分: 搬送設備)

既設工認		仕様表項目案				発電炉工認				
d. 設計条件及び仕様										
名称	使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, B ()					名称	原子炉建屋クレーン			
種類	〇〇					種類	天井走行式			
設計条件	耐震クラス	〇〇					容量	主巻	t	125
	容 量	〇〇						補巻	t	5
仕様	個 数	〇〇					主要寸法	モノレールホイスト	t	10
		〇〇						走行レール間距離*	mm	
特記事項		〇〇					クレーン本体ガード距離	mm	変更なし	
							クレーン本体ガード幅	mm		
							クレーン本体ガード高さ	mm		
							材 料	ガ	ダ	SM50A**
							個 数	-	1	
							取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	-	-
								設 置 床	-	EL. 54.50 ***
								溢水防護上の区画番号	-	-
							溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	
構造図: 第3.1.1.3-1図に示す。										
注記 1): 使用済燃料受入れ・貯蔵建屋天井クレーンA, Bは、基準地震動S ₁ 及びS ₂ にて燃料取出しピットに波及的影響を与えないように設計する。										

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「スパン」と記載。
 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には [] と記載。
 *3: 公称値を示す。
 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成元年4月26日付け発管業発第37号にて届け出した工事計画の添付書類「1-2-1 原子炉建屋クレーンの耐震性についての計算書」による。

仕様表の記載項目 (機種区分: M/C/P/C/MCC/分電盤/リレー盤)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
(I) 6.9kV非常用母線A, B				1) 460V非常用母線				4 非常用電源設備の基本設計方針, 適用基準及び適用規格			
名称		-		6.9kV非常用メタクラA, B (機器番号)		-		(1) 基本設計方針			
設計条件		耐震クラス		-		耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)		第2章 個別項目			
		-		OO		-		1. 非常用電源設備の電源系統			
仕様		用途		-		用途		1.2 代替所内電気系統			
		-		OO		-		(省略)			
		電圧		V		電圧		これとは別に上記3系統の非常用母線等の機能が喪失したことにより発生する			
		V		OO		V		重大事故等の対応に必要な設備に電力を給電する代替所内電気設備として, 緊急			
主要寸法		高さ		mm		主要寸法 高さ		用断路器 (6900V, 1200A のものを1個), 緊急用メタルクラッド開閉装置 (6900V,			
		mm		OO		mm		1200A のものを1個), 緊急用動力変圧器 (2000kVA, 6900/480V のものを1個),			
個数		-		OO		個数		緊急用パワーセンタ (480V, 3000A のものを1個), 緊急用モータコントロールセ			
		-		OO		-		ンタ (480V, 800A のものを3個), 可搬型代替低圧電源車接続盤 (交流入出力 (480V,			
		-		OO		-		1600A), 可搬型整流器交流入力 (210V, 600A), 可搬型整流器直流出力 (150V, 400A)			
		-		OO		-		のものを2個), 緊急用計装交流主母線盤 (50kVA, 480/240-120V のものを1個),			
		-		OO		-		緊急用直流125V充電器 (125V, 700A のものを1個), 可搬型整流器用変圧器			
		-		OO		-		(150kVA, 480/210V のものを2個), 可搬型代替直流電源設備用電源切替盤 (125V,			
		-		OO		-		400A のものを1個), 緊急用直流125V主母線盤 (125V, 1200A のものを1個),			
		-		OO		-		緊急用直流125Vモータコントロールセンタ (125V, 400A のものを1個), 緊急用			
		-		OO		-		直流125V計装分電盤 (125V, 400A のものを1個), 緊急用無停電電源装置, 緊急			
		-		OO		-		用無停電計装分電盤 (120V, 400A のものを1個), 緊急用電源切替盤 (緊急用交			
		-		OO		-		流電源切替盤 (480V, 65A のものを2個), 緊急用直流電源切替盤 (125V, 120A の			
		-		OO		-		ものを1個), 緊急用直流計装電源切替盤 (125V, 50A のものを2個), 緊急用無			
		-		OO		-		停電計装電源切替盤 (120V, 50A のものを1個)) を使用できる設計とする。			
		-		OO		-		(省略)			

構造図: 第3.2.1.1.1-i図に示す。

仕様表の記載項目 (機種区分：発電機 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																																																																																																																																																																				
(4) 第2非常用ディーゼル発電機 (4.1) 内燃機関				常設/可搬 ディーゼル機関				2.3 常設代替高圧電源装置 (2) 内燃機関に係る次の事項 イ 機関の名称、種類、出力、回転速度、燃料の種類及び使用量、個数並びに取付箇所並びに過給機の種類、出口の圧力、回転速度、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)																																																																																																																																																																																																																																																																																				
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">名称</td> <td style="width:15%;">—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">ディーゼル機関A, B ()</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">仕 様</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/台</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>起動時間</td> <td>秒</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>调速装置</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非 常 調 速 装 置</td> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">過 給 機</td> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>出口の圧力</td> <td>MPa</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主 要 寸 法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> </table>				名称	—	ディーゼル機関A, B ()		設計条件	耐震クラス	—	〇〇	仕 様	種類	—	〇〇	用途	—	〇〇	出力	kW/台	〇〇	回転数	rpm	〇〇	起動時間	秒	〇〇	個数	—	〇〇	调速装置	種類	—	〇〇	非 常 調 速 装 置	個数	—	〇〇	種類	—	〇〇	過 給 機	個数	—	〇〇	種類	—	〇〇	出口の圧力	MPa	〇〇	回転数	rpm	〇〇	主 要 寸 法	高さ	mm	〇〇	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">ディーゼル機関 (機器番号)</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td>—</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">仕 様</td> <td rowspan="6" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">エ ン ジ ン</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>用途</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>出力</td> <td>kW/台</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>回転数</td> <td>rpm</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>起動時間</td> <td>秒</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>燃料種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">過 給 機</td> <td>使用料</td> <td>L/h</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非 常 調 速 装 置</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">主 要 寸 法</td> <td>種類</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>出口の圧力</td> <td>MPa</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">設 置 箇 所</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">設置床</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> <tr> <td colspan="2">溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td style="text-align: center;">〇〇</td> </tr> </table>				名称		—	ディーゼル機関 (機器番号)		設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	—	〇〇 (〇〇)		仕 様	エ ン ジ ン	種類	—	〇〇	用途	—	〇〇	出力	kW/台	〇〇	回転数	rpm	〇〇	起動時間	秒	〇〇	燃料種類	—	〇〇	過 給 機	使用料	L/h	〇〇	個数	—	〇〇	種類	—	〇〇	個数	—	〇〇	非 常 調 速 装 置	種類	—	〇〇	個数	—	〇〇	主 要 寸 法	種類	—	〇〇	出口の圧力	MPa	〇〇	個数	—	〇〇	設 置 箇 所	高さ	mm	〇〇	系統名 (ライン名)		—	〇〇	設置床		—	〇〇	溢水防護上の区画番号		—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">変更前</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出力</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">1450</td> </tr> <tr> <td colspan="2">回転速度</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">1500</td> </tr> <tr> <td colspan="2">燃料種類</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">軽油</td> </tr> <tr> <td colspan="2">燃料使用量</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">397</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">411</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">6 (発電機1個当たり1)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取 付 箇 所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> <td>No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> <td>常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">機 取 付 箇 所</td> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>HP-1-1</td> <td>HP-1-1</td> <td>HP-1-2</td> <td>HP-1-2</td> <td>HP-1-3</td> <td>HP-1-3</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> <td>EL.11.80 m 以上</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(備考)</td> <td colspan="5"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">変更前</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td colspan="2">種類</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">排気ガスタービン式</td> </tr> <tr> <td colspan="2">出口の圧力</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">168.0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">回転速度</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">9000</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">24 (機関1個当たり4)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">取付箇所</td> <td colspan="5" style="text-align: center;">機関と同じ</td> </tr> </table>									変更前		変更後			名称		常設代替高圧電源装置 内燃機関					種類		4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関					出力		1450					回転速度		1500					燃料種類		軽油					燃料使用量		397		411			個数		6 (発電機1個当たり1)					取 付 箇 所	系統名 (ライン名)	No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関	設置床	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	機 取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.11.80 m 以上	(備考)									変更前		変更後			種類		排気ガスタービン式					出口の圧力		168.0					回転速度		9000					個数		24 (機関1個当たり4)					取付箇所		機関と同じ														
名称	—	ディーゼル機関A, B ()																																																																																																																																																																																																																																																																																										
設計条件	耐震クラス	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
仕 様	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	用途	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	出力	kW/台	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	回転数	rpm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	起動時間	秒	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	调速装置	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
非 常 調 速 装 置	個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
過 給 機	個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	出口の圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	回転数	rpm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
主 要 寸 法	高さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	名称		—	ディーゼル機関 (機器番号)																																																																																																																																																																																																																																																																																								
設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	—	〇〇 (〇〇)																																																																																																																																																																																																																																																																																									
仕 様	エ ン ジ ン	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		用途	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		出力	kW/台	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		回転数	rpm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		起動時間	秒	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		燃料種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	過 給 機	使用料	L/h	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
非 常 調 速 装 置	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
主 要 寸 法	種類	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	出口の圧力	MPa	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	個数	—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
設 置 箇 所	高さ	mm	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	系統名 (ライン名)		—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	設置床		—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	溢水防護上の区画番号		—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																								
溢水防護上の配慮が必要な高さ		—	〇〇																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																								
名称		常設代替高圧電源装置 内燃機関																																																																																																																																																																																																																																																																																										
種類		4サイクル空冷直接噴射式 16気筒ディーゼル機関																																																																																																																																																																																																																																																																																										
出力		1450																																																																																																																																																																																																																																																																																										
回転速度		1500																																																																																																																																																																																																																																																																																										
燃料種類		軽油																																																																																																																																																																																																																																																																																										
燃料使用量		397		411																																																																																																																																																																																																																																																																																								
個数		6 (発電機1個当たり1)																																																																																																																																																																																																																																																																																										
取 付 箇 所	系統名 (ライン名)	No.1 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.2 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.3 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.4 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.5 常設代替高圧電源装置 内燃機関	No.6 常設代替高圧電源装置 内燃機関																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	設置床	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m	常設代替高圧電源装置置場 EL.11.00 m																																																																																																																																																																																																																																																																																					
機 取 付 箇 所	溢水防護上の区画番号	HP-1-1	HP-1-1	HP-1-2	HP-1-2	HP-1-3	HP-1-3																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上	EL.11.80 m 以上																																																																																																																																																																																																																																																																																					
(備考)																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		変更前		変更後																																																																																																																																																																																																																																																																																								
種類		排気ガスタービン式																																																																																																																																																																																																																																																																																										
出口の圧力		168.0																																																																																																																																																																																																																																																																																										
回転速度		9000																																																																																																																																																																																																																																																																																										
個数		24 (機関1個当たり4)																																																																																																																																																																																																																																																																																										
取付箇所		機関と同じ																																																																																																																																																																																																																																																																																										
構造図：第3.2.1.1.12-10図に示す。																																																																																																																																																																																																																																																																																												

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：発電機 (常設/可搬))

既設工認			仕様表項目案			発電炉工認																																																												
(4.2) 発電機																																																																		
名称	-	同期発電機A, B	名称	-	同期発電機 (機器番号)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td colspan="2">常設代替高圧電機装置</td> </tr> <tr> <td>種別</td> <td>-</td> <td colspan="2">防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>kVA/台</td> <td colspan="2">1725</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>2453**</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>1753**</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1572**</td> </tr> <tr> <td>力率</td> <td>%</td> <td colspan="2">80 (遅れ)</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V</td> <td colspan="2">6600</td> </tr> <tr> <td>相</td> <td>-</td> <td colspan="2">3</td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>Hz</td> <td colspan="2">50</td> </tr> <tr> <td>回転速度</td> <td>min⁻¹</td> <td colspan="2">1500</td> </tr> <tr> <td>結線法</td> <td>-</td> <td colspan="2">星形</td> </tr> <tr> <td>冷却方法</td> <td>-</td> <td colspan="2">空気冷却</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td colspan="2">5 (予備1)**</td> </tr> </table>			変更前		変更後		名称	-	常設代替高圧電機装置		種別	-	防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機		容量	kVA/台	1725		主要寸法	たて	mm	2453**	横	mm	1753**	高さ	mm	1572**	力率	%	80 (遅れ)		電圧	V	6600		相	-	3		周波数	Hz	50		回転速度	min ⁻¹	1500		結線法	-	星形		冷却方法	-	空気冷却		個数	-	5 (予備1)**	
変更前		変更後																																																																
名称	-	常設代替高圧電機装置																																																																
種別	-	防滴保護、空気冷却自己自由通風型三相交流発電機																																																																
容量	kVA/台	1725																																																																
主要寸法	たて	mm	2453**																																																															
	横	mm	1753**																																																															
	高さ	mm	1572**																																																															
力率	%	80 (遅れ)																																																																
電圧	V	6600																																																																
相	-	3																																																																
周波数	Hz	50																																																																
回転速度	min ⁻¹	1500																																																																
結線法	-	星形																																																																
冷却方法	-	空気冷却																																																																
個数	-	5 (予備1)**																																																																
種類	-	〇〇	種類	-	〇〇																																																													
設計条件	耐震クラス	-	〇〇	設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇 (〇〇)																																																											
仕様	用途	-	〇〇	仕様	用途	-	〇〇																																																											
	容量	kVA/台	〇〇		容量	kVA/台	-	〇〇																																																										
	力率	-	〇〇		力率	-	〇〇																																																											
	電圧	V	〇〇		電圧	V	-	〇〇																																																										
	相	-	〇〇		相	-	〇〇																																																											
	周波数	Hz	〇〇		周波数	Hz	-	〇〇																																																										
	回転数	rpm	〇〇		回転速度	min ⁻¹	-	〇〇																																																										
	結線法	-	〇〇		結線法	-	〇〇																																																											
	冷却法	-	〇〇		冷却方法	-	〇〇																																																											
	主要寸法	高さ	mm		〇〇	主要寸法	高さ	mm	〇〇																																																									
	個数	-	〇〇		個数	-	〇〇																																																											
	設置箇所	系統名 (ライン名)	-		〇〇	設置箇所	系統名 (ライン名)	-	〇〇																																																									
設置床		-	〇〇	設置床	-		〇〇																																																											
溢水防護上の区画番号		-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-		〇〇																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ		-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-		〇〇																																																											

構造図：第3.2.1.1.12-11図に示す。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 蓄電池)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																								
<p>(4) 非常用直流電源設備 (a) 蓄電池</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">名称</td> <td style="width:15%;">-</td> <td style="width:70%;">110V第2非常用蓄電池A, B ()</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td>用途</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah 〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V 〇〇</td> </tr> <tr> <td>主要寸法 高さ</td> <td>mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td>- 〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図: 第3.2.1.1.1-9図に示す。</p>	名称	-	110V第2非常用蓄電池A, B ()	種類	-	〇〇	設計条件	耐震クラス	〇〇	仕様	用途	〇〇	容量	Ah 〇〇	電圧	V 〇〇	主要寸法 高さ	mm 〇〇		個数	- 〇〇	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">名称</td> <td style="width:15%;">-</td> <td style="width:70%;">非常用蓄電池 (機器番号)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>種類</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td>〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">仕様</td> <td>用途</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>Ah 〇〇</td> </tr> <tr> <td>電圧</td> <td>V 〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm 〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>個数</td> <td>- 〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">設置箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>- 〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>- 〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>- 〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>- 〇〇</td> </tr> </table>	名称	-	非常用蓄電池 (機器番号)		種類	〇〇	設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)	仕様	用途	〇〇	容量	Ah 〇〇	電圧	V 〇〇	主要寸法	たて	mm 〇〇	横	mm 〇〇	高さ	mm 〇〇		個数	- 〇〇	設置箇所	系統名 (ライン名)	- 〇〇	設置床	- 〇〇	溢水防護上の区画番号	- 〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	- 〇〇	<p>(2) 電力貯蔵装置の名称、種類、容量、電圧、主要寸法、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別々に記載すること。)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後**</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td></td> <td>125V系蓄電池</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td></td> <td>制御弁式扉置鉛蓄電池</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">容量</td> <td>Ah/組</td> <td>A系 2000 (10時間率) B系 2000 (10時間率) HPCS系 500 (10時間率)</td> <td>A系 6000 (10時間率) B系 6000 (10時間率) HPCS系 変更なし</td> </tr> <tr> <td>電圧 V</td> <td>125**</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm A系 □⁺² B系 □⁺² HPCS系 □⁺²</td> <td>A系 □⁺² B系 □⁺² HPCS系 変更なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>横</td> <td>mm A系 □^{+2, +3} B系 □^{+2, +3} HPCS系 □^{+2, +3}</td> <td>A系 □^{+2, +3} B系 □^{+2, +3} HPCS系 変更なし</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm A系 □⁺² B系 □⁺² HPCS系 □⁺²</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>組 3 (A系 1組当たり58個) B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個</td> <td>3 (A系 1組当たり120個) B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし</td> </tr> </tbody> </table>			変更前	変更後**	名称		125V系蓄電池	変更なし	種類		制御弁式扉置鉛蓄電池	変更なし	容量	Ah/組	A系 2000 (10時間率) B系 2000 (10時間率) HPCS系 500 (10時間率)	A系 6000 (10時間率) B系 6000 (10時間率) HPCS系 変更なし	電圧 V	125**	変更なし	たて	mm A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 □ ⁺²	A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 変更なし	主要寸法	横	mm A系 □ ^{+2, +3} B系 □ ^{+2, +3} HPCS系 □ ^{+2, +3}	A系 □ ^{+2, +3} B系 □ ^{+2, +3} HPCS系 変更なし	高さ	mm A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 □ ⁺²	変更なし	個数	組 3 (A系 1組当たり58個) B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個	3 (A系 1組当たり120個) B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし
名称	-	110V第2非常用蓄電池A, B ()																																																																																								
種類	-	〇〇																																																																																								
設計条件	耐震クラス	〇〇																																																																																								
仕様	用途	〇〇																																																																																								
	容量	Ah 〇〇																																																																																								
	電圧	V 〇〇																																																																																								
	主要寸法 高さ	mm 〇〇																																																																																								
	個数	- 〇〇																																																																																								
名称	-	非常用蓄電池 (機器番号)																																																																																								
	種類	〇〇																																																																																								
設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)																																																																																								
仕様	用途	〇〇																																																																																								
	容量	Ah 〇〇																																																																																								
	電圧	V 〇〇																																																																																								
	主要寸法	たて	mm 〇〇																																																																																							
		横	mm 〇〇																																																																																							
		高さ	mm 〇〇																																																																																							
	個数	- 〇〇																																																																																								
設置箇所	系統名 (ライン名)	- 〇〇																																																																																								
	設置床	- 〇〇																																																																																								
	溢水防護上の区画番号	- 〇〇																																																																																								
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	- 〇〇																																																																																								
		変更前	変更後**																																																																																							
名称		125V系蓄電池	変更なし																																																																																							
種類		制御弁式扉置鉛蓄電池	変更なし																																																																																							
容量	Ah/組	A系 2000 (10時間率) B系 2000 (10時間率) HPCS系 500 (10時間率)	A系 6000 (10時間率) B系 6000 (10時間率) HPCS系 変更なし																																																																																							
	電圧 V	125**	変更なし																																																																																							
	たて	mm A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 □ ⁺²	A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 変更なし																																																																																							
主要寸法	横	mm A系 □ ^{+2, +3} B系 □ ^{+2, +3} HPCS系 □ ^{+2, +3}	A系 □ ^{+2, +3} B系 □ ^{+2, +3} HPCS系 変更なし																																																																																							
	高さ	mm A系 □ ⁺² B系 □ ⁺² HPCS系 □ ⁺²	変更なし																																																																																							
	個数	組 3 (A系 1組当たり58個) B系 1組当たり58個 HPCS系 1組当たり58個	3 (A系 1組当たり120個) B系 1組当たり120個 HPCS系 変更なし																																																																																							

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 非常用無停電電源装置)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
名称		105V非常用計測交流電源盤A, B		名称		105V非常用無停電電源装置 A, B (機器番号)		名称		非常用無停電電源装置	
種類		〇〇		種類		〇〇		種類		非常用無停電電源装置	
設計条件		耐震クラス		設計条件		耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)		容量		35	
仕様		用途		仕様		用途		電圧		交流 440	
		容量				容量		出力		直流 125	
		電圧				電圧		周波数		交流 120	
		交流入力				交流入力		主要寸法		50及び直流	
		交流出力				交流出力		高さ		1300*	
		周波数				周波数		個数		3200*	
		主要寸法				主要寸法		取付箇所		2300*	
		高さ				高さ		系統名 (ライン名)		EL. 8.20 m	
		個数				個数		設置床		EL. 8.20 m	
						系統名 (ライン名)		溢水防護上の区画番号		CS-1-3	
						設置床		溢水防護上の配慮が必要な高さ		EL. 8.20 m以上	
						溢水防護上の区画番号				EL. 8.20 m以上	
						溢水防護上の配慮が必要な高さ					

・常設

		変更前	変更後
名称		非常用無停電電源装置	
種類		静止形定電圧定周波数電源装置	
容量		35	
電圧	入力	V	交流 440
	出力	V	直流 125
周波数	入力	Hz	交流 120
	出力	Hz	50及び直流
主要寸法	たて	mm	50
	横	mm	1300*
	高さ	mm	3200*
個数			2300*
			2
取付箇所	系統名 (ライン名)		非常用無停電電源装置 A 非常用無停電電源装置 B
	設置床		EL. 8.20 m EL. 8.20 m
	溢水防護上の区画番号		CS-1-3 CS-1-3
	溢水防護上の配慮が必要な高さ		EL. 8.20 m以上 EL. 8.20 m以上

注記 *: 公称値を示す。

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 計測制御設備 (常設/可搬))

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																												
<p>d. 設計条件及び仕様</p> <p>(a) 申請設備のうち、主要な計測制御系の設計条件及び仕様を以下の仕様表に、その系統の構成を第1.2.1.3.1-2図~第1.2.1.3.1-23図に示す。また、仕様に記載の計器を第2.1.3.1-1表に、盤類の配置を第2.2.2-4図~第2.2.2-6図に示す。</p> <p>(b) 申請設備のうち、将来設置する機器に係る計測制御設備のリストを第2.1.3.1-3表に示す。</p> <p>(c) 申請設備のうち、溶接の機種区分に該当する導圧配管は第4.2.1.3.1-1図に、計測制御系の安全上重要な施設に該当する導圧配管は第4.2.1.3.1-2図に示す。</p>	<p>検出器については、台数が多いため、A4横で複数台を同時に記載することも可とする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>名称</td> <td>○○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>○○検出器* 2</td> <td>○○検出器</td> <td>○○検出器</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)</td> <td>○○(○ ○)</td> <td>○○(○ ○)</td> <td>○○(○ ○)</td> </tr> <tr> <td>表示, 操作場所</td> <td colspan="3">○○建屋の現場及び中央制御室</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>○ ○ ○ ○</td> <td>○○~ ○○</td> <td>○○~ ○○</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>系統図(ライン名)</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>○ ○</td> <td>○○</td> <td>○○</td> </tr> </table>	名称	○○	○○	○○	検出器の種類	○○検出器* 2	○○検出器	○○検出器	耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)	○○(○ ○)	○○(○ ○)	○○(○ ○)	表示, 操作場所	○○建屋の現場及び中央制御室			計測範囲	○ ○ ○ ○	○○~ ○○	○○~ ○○	警報動作範囲	○ ○	○○	○○	個数	○ ○	○○	○○	取付箇所	○ ○	○○	○○	系統図(ライン名)	○ ○	○○	○○	設置床	○ ○	○○	○○	溢水防護上の区画番号	○ ○	○○	○○	溢水防護上の配慮が必要な高さ	○ ○	○○	○○	<p>(2) 原子炉圧力容器本体の入口又は出口の原子炉冷却材の圧力、温度又は流量(代替注水の流量を含む。)を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・常設</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2"></td> <td>変更前</td> <td>変更後</td> </tr> <tr> <td>名</td> <td>符**</td> <td colspan="2">主蒸気流量</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>-</td> <td colspan="2">空江式流量検出器**</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>0~2000 t/h** **</td> <td colspan="2">-0.058~1.030 MPa** **</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>4</td> <td colspan="2">16**</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td colspan="2">主蒸気流量 主系気流**</td> </tr> <tr> <td>系統図(ライン名)</td> <td>-</td> <td colspan="2">EL 14.00 m**</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td colspan="2">-</td> </tr> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「項目」と記載。 *2: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器測定範囲」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0~2000 t/h」と記載。 *5: 配管1本あたりの数値とする。 *6: 本計測装置は記載の適正化のみを行うものであり、干渉は対象外である。 *7: 計測範囲は、圧力指示を記載。 *8: 対象計器は、DPT-E31-N066C, DPT-E31-N066D, DPT-E31-N067C, DPT-E31-N067D, DPT-E31-N068C, DPT-E31-N068D, DPT-E31-N069C, DPT-E31-N069D, *9: 対象計器は、DPT-E31-N066A, DPT-E31-N066B, DPT-E31-N067A, DPT-E31-N067B, DPT-E31-N068A, DPT-E31-N068B, DPT-E31-N069A, DPT-E31-N069B。</p>			変更前	変更後	名	符**	主蒸気流量		検出器の種類	-	空江式流量検出器**		計測範囲	0~2000 t/h** **	-0.058~1.030 MPa** **		警報動作範囲	-	-		個数	4	16**		取付箇所	-	主蒸気流量 主系気流**		系統図(ライン名)	-	EL 14.00 m**		設置床	-	-		溢水防護上の区画番号	-	-		溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	
名称	○○	○○	○○																																																																																											
検出器の種類	○○検出器* 2	○○検出器	○○検出器																																																																																											
耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)	○○(○ ○)	○○(○ ○)	○○(○ ○)																																																																																											
表示, 操作場所	○○建屋の現場及び中央制御室																																																																																													
計測範囲	○ ○ ○ ○	○○~ ○○	○○~ ○○																																																																																											
警報動作範囲	○ ○	○○	○○																																																																																											
個数	○ ○	○○	○○																																																																																											
取付箇所	○ ○	○○	○○																																																																																											
系統図(ライン名)	○ ○	○○	○○																																																																																											
設置床	○ ○	○○	○○																																																																																											
溢水防護上の区画番号	○ ○	○○	○○																																																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ	○ ○	○○	○○																																																																																											
		変更前	変更後																																																																																											
名	符**	主蒸気流量																																																																																												
検出器の種類	-	空江式流量検出器**																																																																																												
計測範囲	0~2000 t/h** **	-0.058~1.030 MPa** **																																																																																												
警報動作範囲	-	-																																																																																												
個数	4	16**																																																																																												
取付箇所	-	主蒸気流量 主系気流**																																																																																												
系統図(ライン名)	-	EL 14.00 m**																																																																																												
設置床	-	-																																																																																												
溢水防護上の区画番号	-	-																																																																																												
溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-																																																																																												
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>名称</th> <th>分岐設備の主要な計測制御系</th> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> </tr> <tr> <td>表示, 操作場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>対象設備及び計測制御内容</td> </tr> </table>	名称	分岐設備の主要な計測制御系	設計条件	耐震クラス	表示, 操作場所		仕様	対象設備及び計測制御内容																																																																																						
名称	分岐設備の主要な計測制御系																																																																																													
設計条件	耐震クラス																																																																																													
表示, 操作場所																																																																																														
仕様	対象設備及び計測制御内容																																																																																													

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：主排気筒)

既設工認			仕様表項目案			発電炉工認				
	名称	—	主排気筒							
	種類	—	〇〇							
設計条件	耐震クラス	—	〇〇							
	支持地盤の許容支持力度	MPa	〇〇							
	流体の種類	—	〇〇							
仕様	主要寸法	出口内径	m	〇〇						
		地上高さ	m	〇〇						
	主要材料	主要材料	—	〇〇						
		厚さ	mm	〇〇						
仕様	支持鉄塔	—	〇〇							
	基礎	—	〇〇							
構造図：第3.2.1.5-1図に示す。										
注記 1)：支持鉄塔及び基礎は、基準地震動S ₁ で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。										
2)：腐食層の許容支持力度として、重要な建物・構築物ごとに定まる値の最小値とする。										
3)：単位 (t/m)										
4)：厚さは、母材+合せ板を示す。										
5)：本設備の基礎上部には、主排気筒管理建屋があり、その重量を考慮して耐震計算を行う。										
			名称							
			種類							
			設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	—	〇〇 (〇〇)				
				流体の種類	—	〇〇				
			仕様	名称	—	〇〇				
				筒身	主要寸法	出口内径	m	〇〇		
						地上高さ	m	〇〇		
			主要材料	—	〇〇					
			個数	—	〇〇					
						2.4 その他				
						(16) 排気筒の名称、種類、主要寸法、材料及び個数 (内筒及び外筒の別に記載すること。)				
						変更前				
						変更後				
						名称				
						主排気筒				
						鉄塔支持型鋼製				
						(耐震装置付 [減衰係数: <input type="text"/> *1])				
			主要寸法	内径*2	mm	4500*2,*4				
				地上高さ	m	140*4				
			材料	—	SS400					
			個数	—	1					
						変更なし				
						注記 *1: オイルダンパの減衰係数を示す。				
						*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。				
						*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載。				
						*4: 公称値を示す。				
						変更前				
						変更後				
						名称				
						非常用ガス処理系排気筒				
						非常用ガス処理系排気筒*1				
						主排気筒支持型鋼製				
			主要寸法	内径*2	mm	428.6*3				
				地上高さ*4	m	140*3				
			材料	—	SM41B					
			個数	—	1					
						変更なし				
						注記 *1: 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (耐圧強化ベント系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉建屋ガス処理系 非常用ガス処理系) と兼用する。				
						*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。				
						*3: 公称値を示す。				
						*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身高さ」と記載。				

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 排風機 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
名	称	-	中央制御室送風機 A, B (機器番号)	名	称	-	中央制御室送風機 A, B (機器番号)	名	称	-	中央制御室換気系空気調和器ファン		
種	類	-	〇〇	種	類	-	〇〇	種	類	-	遠心式		
設計条件	耐震クラス	-	〇〇	設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇	主要寸法	容量	m ³ /h/個	42500 以上 (42500* ⁴)		
	流体の種類	-	〇〇		流体の種類	-	〇〇		吸込口径	mm	660* ⁴	991* ⁴	
仕様	容量	m ³ /h/個	〇〇		最高使用圧力	MPa	-		(〇〇 ¹⁾)	吐出口径	mm	840* ⁴ × 550* ⁴	941* ⁴ × 778* ⁴
	主要寸法	全高	mm		最高使用温度	℃	-		(〇〇 ¹⁾)	たて	mm	1114* ⁴	1851* ⁴
	主要材料	ケーシング	-	容量	m ³ /h/個	〇〇	仕様		横	mm	2210* ⁴	2550* ⁴	
	個数	-	〇〇	主要寸法	全高	mm		〇〇	高さ	mm	1900* ⁴	1755* ⁴	
特記事項	〇〇	〇〇	〇〇	主要材料	ケーシング	-		〇〇	個数	-	2	中央制御室換気系空気調和器ファン 中央制御室換気系* ⁵	
				個数	-	〇〇		系統名 (ライン名)	-	-	中央制御室換気系* ⁵		
				取付箇所	-	〇〇	設置床	-	□□	EL. 23.00m* ⁵			
				原動機	-	〇〇	溢水防護上の区画番号	-	-	CS-3-1			
出力	kW/個	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-	EL. 23.00m 以上						
個数	-	〇〇	〇〇	原動機の種類	-	〇〇	誘導電動機* ⁵						
取付箇所	-	〇〇	出力	kW/個	45* ⁵	変更なし							
設計上の空気の流入率	回/h	-	個数	-	2* ⁵								
注記 1): 重大事故時の使用時の値を示す。	-	-	取付箇所	-	送風機と同じ* ⁵								
設計上の空気の流入率	回/h	1.0* ⁵	設計上の空気の流入率	回/h	1.0* ⁵								

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「送風機」と記載。
 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。
 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「m3/hr」と記載。
 *4: 公称値を示す。
 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

表中の「□□」はマスキング箇所を示す。

仕様表の記載項目 (機種区分: フィルタ (常設/可搬))

○高性能粒子フィルタ

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認							
名	称	-	第1高性能粒子フィルタA, B, C (機器番号)	名称	-	変更前 第1高性能粒子フィルタA, B, C (機器番号)	変更後	名称	-	変更前	変更後				
種	類	-	〇〇	種類	-	〇〇	変更なし	種類	-	-	緊急時対策所非常用フィルタ装置 (〇〇, 〇〇発電所共用)				
設計条件	機器の種類	-	〇〇	機器の種類	-	〇〇	変更なし	効率	単体	高性能粒子フィルタ	%	99.97以上 (0.15μm以上の粒子に対して)			
	標準濃度	βγ	Bq/cm³ [normal]	〇〇	標準濃度	βγ	Bq/cm³ [normal]				〇〇	総合	よう素用チャコールフィルタ	%	99.75以上 (相対湿度70%以下, 温度10℃以下において)
		α	α Bq/cm³ [normal]	〇〇		α	α Bq/cm³ [normal]				〇〇			高性能粒子フィルタ	%
		Pu	g/m³ [normal]	〇〇		Pu	g/m³ [normal]			〇〇	よう素用チャコールフィルタ				%
	耐震クラス	-	〇〇	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇	〇 (〇〇)			吸込口径	mm	355.6*			
	流体の種類	-	〇〇	流体の種類	-	〇〇	変更なし			吐出口径	mm	355.6*			
	最高使用圧力	kPa	〇〇	最高使用圧力	kPa	-	(〇〇 ³⁾)			たて	mm	1500*			
最高使用温度	℃	〇〇	最高使用温度	℃	-	(〇〇 ³⁾)	横	mm	7700*						
仕様	容量	m³/h/個 [normal]	〇〇	容量	m³/h/個 [normal]	〇〇	変更なし	高さ	mm	2100*					
	粒子除去効率 ¹⁾	%	〇〇	粒子除去効率	%	〇〇	変更なし	個数	-	2					
		主要寸法	全長		mm	主要寸法		全長	mm	〇〇	個数	-	2		
			全幅		mm			全幅	mm		〇〇	系統名 (ライン名)	-	緊急時対策所非常用フィルタ装置 A	緊急時対策所非常用フィルタ装置 B
			全高		mm			全高	mm		〇〇	設置床	-	緊急時対策所換気系	緊急時対策所換気系
			厚さ		mm			厚さ	mm		〇〇	溢水防護上の区画番号	-	緊急時対策所	緊急時対策所
	主要材料	ケーシング	-	〇〇	主要材料	ケーシング	-	〇〇	EL. 37.00m	EL. 37.00m					
ろ材	-	〇〇	ろ材	-	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	EM-3-1	EM-3-1						
個数	-	〇〇	個数	-	〇〇	取付箇所	-	EL. 37.10m	EL. 37.10m						
注記 1): 99.999%以上/2段 2): 単位は (kg/cm³) 3): 重大事故時の使用時の値を示す。				注記 1): 99.999%以上/2段 2): 単位は (kg/cm³) 3): 重大事故時の使用時の値を示す。				注記 *: 公称値を示す。							

表中の「□□」はマスキング対象

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
名	称	-	よう素フィルタ A, B ○○	名称	-	変更前 よう素フィルタA, B (機器番号)	変更後	名称	-	変更前	変更後		
	種	類	-	○○	種類	-	○○	変更なし	種類	-	フィルタ装置		
設計条件	機器の種類	-	○○	機器の種類	-	○○	変更なし	効率*2	%	スクラビング水, 金属フ ィルタ 及び銀ゼオライト 粒子状放射性物質 99.9 以上 無機よう素 99以上 有機よう素 99以上 (原子炉格納容器圧力 0.31MPa 時における定格 点の値)			
	耐震クラス	-	○○	耐震クラス(重大事故 等対処設備の分類)	-	○○	○(○ ○)						
	流体の種類	-	○○	流体の種類	-	○○	変更なし						
	最高使用圧力	kPa	○○	最高使用圧力	kPa	○○	変更なし (○○ 3)						
	最高使用温度	℃	○○	最高使用温度	℃	○○	変更なし (○○ 3)						
仕様	容量	m³/h/個 [normal]	○○	容量	m³/h/個 [normal]	○○	変更なし	主要寸法	mm	-	洞内径	mm	4600*3
	よう素除去効率	%	○○	よう素除去効率	%	○○					洞板厚さ	mm	□□ (30*3)
											鏡板厚さ	mm	□□ (30*3)
											平板厚さ	mm	4600*3 (鏡板長径)
											全高	mm	1150*3 (鏡板短径の2分 の1)
											管台外径 (ベントガス入口)	mm	457.2*3
	主要材料	-	○○	主要寸法	mm	○○					管台厚さ (ベントガス入口)	mm	□□ (14.3*3)
											鏡板厚さ	mm	355.6*3
											平板厚さ	mm	○○
											全高	mm	○○
管台外径 (ベントガス出口)							mm	○○					
個数	-	○○	主要材料	-	○○	管台厚さ (ベントガス出口)	mm	□□ (11.1*3)					
						洞板	-	○○					
						鏡板	-	○○					
						平板	-	○○					
						ろ材	-	○○					
取付箇所	-	○○	個数	-	○○	マンホール外径	mm	609.6*3					
			系統名(ライン名)	-	○○	マンホール厚さ	mm	□□ (20.0*3)					
			設置床	-	○○	マンホール平板厚さ	mm	□□ (83.2*3)					
			溢水防護上の区画番号	-	○○	高さ	mm	10000*3					
特記事項	-	○○	溢水防護上の配慮が 必要な高さ	-	○○	個数	-	○○					
			系統名(ライン名)	-	○○	取付箇所	系統名 (ライン名)	-	○○				
			設置床	-	○○	設置床	-	○○					
			溢水防護上の区画番号	-	○○	溢水防護上の 区画番号	-	○○					
注記 1): 単位は (kg/cm³)								注記 *: 公称値を示す。					

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: グローブボックス①)

○グローブボックス (遮蔽付き、漏えい液受皿なし)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
名称		脱硝皿取扱装置第1グローブボックス A, B ²⁾ (○○)		名称		○○ (機器番号)							
種類		グローブボックス ²⁾		種類		○○							
設計条件	耐震クラス	○○		設計条件	耐震クラス	○○							
	最高使用圧力	MPa	○○		最高使用温度	℃	○○						
	最高使用温度	℃	○○		放射線防護 (しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。						
仕様	主要寸法	たて	mm	○○	仕様	主要寸法	たて	mm	○○				
		横	mm	○○			横	mm	○○				
		高さ	mm	○○			高さ	mm	○○				
		全高	mm	○○			主要材料	-	○○				
仕様	主要材料	本体部	○○			仕様	しゃへい体	しゃへい体	しゃへい体の厚み及び材料を第○-○表に示す。				
		覗き窓部	材料	○○	○○			○○	個数	-	○○		
			厚さ	mm	○○			○○		○○			
	密度		g/cm ³	-	○○		-						
	しゃへい体	材料	○○	○○	○○								
		厚さ	mm	○○	○○		○○						
密度		g/cm ³	-	-	○○								
個数	-	2											
特記事項		(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1 vol %/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンを使用するしゃへい体の操作面は、覗き窓を除きステンレス鋼で被覆する。 (3) 本グローブボックスは脱硝装置グローブボックスA, Bに接続するため、Aクラス地震力により閉じ込め機能を確認する。											
構造図		第3.2.5.2.2-7図に示す。											
注記		1): JIS K 6748の規定による。 2): 給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。 3): 本グローブボックスは ○○ と接続している。											
				第○-○表 ○○○のグローブボックスのしゃへい体の厚み及び材料									
名称		しゃへい体		しゃへい体厚み (mm)		材料							
○○		前面しゃへい体											
		後面しゃへい体											
		側面しゃへい体											
		しゃへい窓											

仕様表の記載項目 (機種区分: グローブボックス②)

○グローブボックス (遮蔽付き、漏えい液受皿あり)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認					
名称		-	定量ポットグローブボックスB ¹⁾ (○○)		名称		-	○○グローブボックス (漏えい液受皿付き) (機器番号)					
種類		-	グローブボックス ²⁾		種類		-						
設計条件	耐震クラス	-	○○		耐震クラス	-							
	最高使用圧力	MPa	○○		最高使用温度	℃							
	最高使用温度	℃	○○		放射線防護 (しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。						
	放射線防護 (しゃへい)	-	しゃへい設計区分の基準線量当量率を満足するものとする。		漏えい液受皿部	機器の種類	-	○○					
仕様	主要寸法	たて	mm	○○		核的制限値	最大液厚み	mm					
		横	mm	○○									
		高さ ¹⁾	mm	○○									
		全高	mm	○○									
	漏えい液受皿部	深さ	mm	○○									
		本体板厚さ	mm	○○									
主要材料	本体部	-	○○										
	漏えい液受皿部	-	○○										
覗き窓部	材料	-	○○	○○	○○								
	厚さ	mm	○○	○○	○○								
	密度	g/cm ³	○○	○○	○○								
しゃへい体	材料	-	○○	○○	○○								
	厚さ	mm	○○	○○	○○								
密度	g/cm ³	○○	○○	○○									
	個数	-	1										
特記事項		-	(1) グローブボックスの気密性は漏えい率0.1vol%/h以下とする。 (2) 高密度ポリエチレンは可能な限り、ステンレスで被覆する。										
構造図: 第3.2.5.2.1-7図に示す。													
注記 1): 漏えい液受皿部深さも含む。													
2): JIS K 6748の規定による。													
3): 給気口及び排気口を除き密閉することができる構造とする。													
4): 本グローブボックスは ○○ と接続している。													

仕様表の記載項目 (機種区分: 放管設備 (常設/可搬))

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																																															
<p>② 屋外モニタリング設備</p> <table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">仕様</td> <td rowspan="2">検出器の種類</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測範囲</td> <td>cpm</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報動作範囲</td> <td>cpm</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置建屋及び検出器個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>特記事項</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> </table> <p>構造図: 第3.2.1-1図~第3.2.1-5図に示す。</p>				名称	—	〇〇		設計条件	耐震クラス	〇〇		仕様	検出器の種類	〇〇		〇〇	〇〇	計測範囲	cpm	〇〇	〇〇	A	〇〇		警報動作範囲	cpm	〇〇	〇〇	A	〇〇		設置建屋及び検出器個数	—	〇〇		表示場所	—	〇〇		特記事項	〇〇			<table border="1"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="3">主排気筒ガスモニタ</td> </tr> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)</td> <td colspan="3">〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">仕様</td> <td rowspan="2">検出器の種類</td> <td colspan="2">〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>低レンジ</td> <td>中レンジ</td> <td>高レンジ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計測範囲</td> <td>mSv/h</td> <td>〇~〇</td> <td>〇~〇</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">—</td> <td>〇~〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">警報動作範囲</td> <td>mSv/h</td> <td>〇~〇</td> <td>〇~〇</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td colspan="2">—</td> <td>〇~〇</td> </tr> <tr> <td>設置施設及び検出器個数</td> <td>—</td> <td colspan="2">主排気筒管理建屋 〇〇</td> <td>低レンジ 中レンジ 高レンジ △△</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td colspan="3">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> </table>				名称	—	主排気筒ガスモニタ			設計条件	耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)			仕様	検出器の種類	〇〇		〇〇	低レンジ	中レンジ	高レンジ	計測範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—	A	—		〇~〇	警報動作範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—	A	—		〇~〇	設置施設及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 〇〇		低レンジ 中レンジ 高レンジ △△	表示場所	—	〇〇			取付箇所	系統名(ライン名)	—	〇〇		設置床	—	〇〇		溢水防護上の区画番号	—	〇〇		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇		<p>放射線管理施設</p> <p>1 放射線管理用計測装置に係る次の事項(警報装置を有する場合は、その動作範囲を付記すること。)</p> <p>(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項</p> <p>イ 主排気筒中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所(常設及び可搬型の別を記載の場所を付記すること。)及び個数</p> <p>・常設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td colspan="2">主排気筒放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>—</td> <td colspan="2">電離箱*1</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>mSv/h</td> <td colspan="2">10⁻²~10⁴ **</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲**</td> <td>mSv/h</td> <td colspan="2">10⁻²~10⁴ **</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名(ライン名)</td> <td colspan="2">主排気筒放射線モニタ</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td colspan="2">EL. 20.30 m (監視・記録は中央制御室)**</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td colspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>個数**</td> <td>—</td> <td colspan="2">4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「イオンチェンバ」に記載。 *2: S1単位に換算したもの。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「警報設定範囲」と記載。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器数」と記載。</p>				名称		変更前	変更後	名称	—	主排気筒放射線モニタ		検出器の種類	—	電離箱*1		計測範囲	mSv/h	10 ⁻² ~10 ⁴ **		警報動作範囲**	mSv/h	10 ⁻² ~10 ⁴ **		取付箇所	系統名(ライン名)	主排気筒放射線モニタ		設置床	EL. 20.30 m (監視・記録は中央制御室)**		溢水防護上の区画番号	—		溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		個数**	—	4	
名称	—	〇〇																																																																																																																																																					
設計条件	耐震クラス	〇〇																																																																																																																																																					
仕様	検出器の種類	〇〇																																																																																																																																																					
		〇〇	〇〇																																																																																																																																																				
	計測範囲	cpm	〇〇	〇〇																																																																																																																																																			
		A	〇〇																																																																																																																																																				
	警報動作範囲	cpm	〇〇	〇〇																																																																																																																																																			
		A	〇〇																																																																																																																																																				
設置建屋及び検出器個数	—	〇〇																																																																																																																																																					
表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																					
特記事項	〇〇																																																																																																																																																						
名称	—	主排気筒ガスモニタ																																																																																																																																																					
設計条件	耐震クラス(重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)																																																																																																																																																					
仕様	検出器の種類	〇〇		〇〇																																																																																																																																																			
		低レンジ	中レンジ	高レンジ																																																																																																																																																			
	計測範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—																																																																																																																																																		
		A	—		〇~〇																																																																																																																																																		
	警報動作範囲	mSv/h	〇~〇	〇~〇	—																																																																																																																																																		
		A	—		〇~〇																																																																																																																																																		
	設置施設及び検出器個数	—	主排気筒管理建屋 〇〇		低レンジ 中レンジ 高レンジ △△																																																																																																																																																		
表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																					
取付箇所	系統名(ライン名)	—	〇〇																																																																																																																																																				
	設置床	—	〇〇																																																																																																																																																				
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																				
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																				
名称		変更前	変更後																																																																																																																																																				
名称	—	主排気筒放射線モニタ																																																																																																																																																					
検出器の種類	—	電離箱*1																																																																																																																																																					
計測範囲	mSv/h	10 ⁻² ~10 ⁴ **																																																																																																																																																					
警報動作範囲**	mSv/h	10 ⁻² ~10 ⁴ **																																																																																																																																																					
取付箇所	系統名(ライン名)	主排気筒放射線モニタ																																																																																																																																																					
	設置床	EL. 20.30 m (監視・記録は中央制御室)**																																																																																																																																																					
	溢水防護上の区画番号	—																																																																																																																																																					
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—																																																																																																																																																					
個数**	—	4																																																																																																																																																					

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: 放管設備 (常設/可搬))

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																																																																																											
<p>c. 設計条件及び仕様 (a) 放射線監視設備 ① 屋外モニタリング設備 環境モニタリング設備</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>—</th> <th colspan="2">モニタリングポスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td>〇〇</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>配置図: 第1.1.1-1図に示す。 系統図: 第2.1.1-1図に示す。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>—</th> <th colspan="2">ダストモニタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>cps</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>cps</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p>配置図: 第1.1.1-1図に示す。 系統図: 第2.1.1-2図に示す。</p>	名称	—	モニタリングポスト		設計条件	耐震クラス	〇〇		仕様	検出器の種類	〇〇	〇〇	計測範囲	μGy/h	〇〇	警報動作範囲	μGy/h	〇〇	検出器個数	—	〇〇	表示場所	—	〇〇	名称	—	ダストモニタ		設計条件	耐震クラス	〇〇		仕様	検出器の種類	〇〇		計測範囲	cps	〇〇	警報動作範囲	cps	〇〇	検出器個数	—	〇〇	表示場所	—	〇〇	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>—</th> <th colspan="2">モニタリングポスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td colspan="2">〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td>NaI (Tl) シンチレーション検出器</td> <td>電離箱</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μGy/h</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>—</th> <th colspan="2">ダストモニタ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td colspan="2">〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仕様</td> <td>検出器の種類</td> <td colspan="2">〇〇</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>μSv/h</td> <td>プラスチックシンチレーション検出器</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>μSv/h</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>検出器個数</td> <td>—</td> <td>〇〇~〇〇</td> </tr> <tr> <td>表示場所</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table>	名称	—	モニタリングポスト		設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)		仕様	検出器の種類	NaI (Tl) シンチレーション検出器	電離箱	計測範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	警報動作範囲	μGy/h	〇〇~〇〇	検出器個数	—	〇〇	表示場所	—	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	設置床	—	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	名称	—	ダストモニタ		設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)		仕様	検出器の種類	〇〇		計測範囲	μSv/h	プラスチックシンチレーション検出器	警報動作範囲	μSv/h	〇〇~〇〇	検出器個数	—	〇〇~〇〇	表示場所	—	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇	設置床	—	〇〇	溢水防護上の区画番号	—	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇	<p>(3) 固定式周辺モニタリング設備の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所 (監視・記録の場所を付記すること。) 及び個数</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モニタリングポスト (東海、東海第二発電所共用) *1</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>検出器の種類</td> <td>シンチレーション*2</td> <td>電離箱*2</td> </tr> <tr> <td>計測範囲</td> <td>10¹~10² nGy/h</td> <td>10¹~10² Gy/h</td> </tr> <tr> <td>警報動作範囲</td> <td>10¹~10¹ nGy/h*3</td> <td>10¹~10¹ Gy/h*3</td> </tr> <tr> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>4*4, *5</td> <td>4*4, *5</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「モニタリングポスト (東海発電所と共用)」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「シンチレーション及び電離箱」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計測範囲内で可変」と記載。 *4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「発電所周辺監視区域境界近傍に4箇所設置 (監視・記録は中央制御室にて行う)」と記載。 *5: モニタリング・ポストは4箇所あり、モニタリング・ポスト1箇所あたりの検出器の個数は「1」である。</p>	名称	変更前	変更後	モニタリングポスト (東海、東海第二発電所共用) *1	—	—	検出器の種類	シンチレーション*2	電離箱*2	計測範囲	10 ¹ ~10 ² nGy/h	10 ¹ ~10 ² Gy/h	警報動作範囲	10 ¹ ~10 ¹ nGy/h*3	10 ¹ ~10 ¹ Gy/h*3	系統名 (ライン名)	—	—	取付箇所	—	—	設置床	—	—	溢水防護上の区画番号	—	—	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—	個数	4*4, *5	4*4, *5
名称	—	モニタリングポスト																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	〇〇																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	〇〇	〇〇																																																																																																																																																										
	計測範囲	μGy/h	〇〇																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	μGy/h	〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	—	〇〇																																																																																																																																																										
	表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																										
名称	—	ダストモニタ																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス	〇〇																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	〇〇																																																																																																																																																											
	計測範囲	cps	〇〇																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	cps	〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	—	〇〇																																																																																																																																																										
	表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																										
名称	—	モニタリングポスト																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	NaI (Tl) シンチレーション検出器	電離箱																																																																																																																																																										
	計測範囲	μGy/h	〇〇~〇〇																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	μGy/h	〇〇~〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	—	〇〇																																																																																																																																																										
	表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																										
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇																																																																																																																																																										
	設置床	—	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																										
名称	—	ダストモニタ																																																																																																																																																											
設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)																																																																																																																																																											
仕様	検出器の種類	〇〇																																																																																																																																																											
	計測範囲	μSv/h	プラスチックシンチレーション検出器																																																																																																																																																										
	警報動作範囲	μSv/h	〇〇~〇〇																																																																																																																																																										
	検出器個数	—	〇〇~〇〇																																																																																																																																																										
	表示場所	—	〇〇																																																																																																																																																										
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	〇〇																																																																																																																																																										
	設置床	—	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の区画番号	—	〇〇																																																																																																																																																										
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	〇〇																																																																																																																																																										
名称	変更前	変更後																																																																																																																																																											
モニタリングポスト (東海、東海第二発電所共用) *1	—	—																																																																																																																																																											
検出器の種類	シンチレーション*2	電離箱*2																																																																																																																																																											
計測範囲	10 ¹ ~10 ² nGy/h	10 ¹ ~10 ² Gy/h																																																																																																																																																											
警報動作範囲	10 ¹ ~10 ¹ nGy/h*3	10 ¹ ~10 ¹ Gy/h*3																																																																																																																																																											
系統名 (ライン名)	—	—																																																																																																																																																											
取付箇所	—	—																																																																																																																																																											
設置床	—	—																																																																																																																																																											
溢水防護上の区画番号	—	—																																																																																																																																																											
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—																																																																																																																																																											
個数	4*4, *5	4*4, *5																																																																																																																																																											

表中の「〇〇」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：通信連絡設備)

既設工認		仕様表項目案		発電炉工認																							
仕 様	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>プロセス用データ収集装置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要な収集データ</td> <td> 1. せん断処理施設関係 2. 溶解施設関係 3. 分離施設関係 4. 精製施設関係 5. 脱硝施設関係 6. 酸及び溶媒の回収施設関係 7. 製品貯蔵施設関係 8. 安全保護系関係 9. 放射性廃棄物の廃棄施設関係 10. その他再処理設備の付属施設関係 </td> </tr> </tbody> </table>	名 称	プロセス用データ収集装置	主要な収集データ	1. せん断処理施設関係 2. 溶解施設関係 3. 分離施設関係 4. 精製施設関係 5. 脱硝施設関係 6. 酸及び溶媒の回収施設関係 7. 製品貯蔵施設関係 8. 安全保護系関係 9. 放射性廃棄物の廃棄施設関係 10. その他再処理設備の付属施設関係	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>データ収集装置 (機器番号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス</td> <td>〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>仕様</td> <td>主要な収集データ</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>システム名 (ライン名)</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>〇〇</td> </tr> </tbody> </table>	名称	データ収集装置 (機器番号)	種類	〇〇	耐震クラス	〇〇 (〇〇)	仕様	主要な収集データ	個数	〇〇	取 付 箇 所	システム名 (ライン名)	〇〇	設置床	〇〇	溢水防護上の区画番号	〇〇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇	<p>(1) 基本設計方針</p> <p>第2章 個別項目</p> <p>4. 通信連絡設備</p> <p>4.1 通信連絡設備 (発電所内)</p> <p>原子炉冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常の際に、中央制御室等から人が立ち入る可能性のある原子炉建屋、タービン建屋等の建屋内外各所の人に操作、作業、退避の指示、事故対策のための集合等の連絡をブザー鳴動等により行うことができる設備及び音声等により行うことができる設備として、警報装置及び通信設備 (発電所内) を設置又は保管する設計とする。</p> <p>(省略)</p> <p>4.2 通信連絡設備 (発電所外)</p> <p>設計基準事故が発生した場合において、発電所外の本店 (東京)、国、地方公共団体、その他関係機関等の必要箇所へ事故の発生等に係る連絡を音声等により行うことができる通信設備 (発電所外) として、十分な数量の電力保安通信用電話設備 (固定電話機、PHS 端末及びFAX)、テレビ会議システム (社内) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、加入電話設備 (加入電話及び加入FAX) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、専用電話設備 (専用電話 (ホットライン) (地方公共団体向)) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。))、衛星電話設備 (固定型)、衛星電話設備 (携帯型) 及び統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備 (テレビ会議システム、IP 電話及びIP-FAX) (東海、東海第二発電所共用 (以下同じ。)) を設置又は保管する設計とする。</p> <p>(省略)</p>	
	名 称	プロセス用データ収集装置																									
主要な収集データ	1. せん断処理施設関係 2. 溶解施設関係 3. 分離施設関係 4. 精製施設関係 5. 脱硝施設関係 6. 酸及び溶媒の回収施設関係 7. 製品貯蔵施設関係 8. 安全保護系関係 9. 放射性廃棄物の廃棄施設関係 10. その他再処理設備の付属施設関係																										
名称	データ収集装置 (機器番号)																										
種類	〇〇																										
耐震クラス	〇〇 (〇〇)																										
仕様	主要な収集データ																										
個数	〇〇																										
取 付 箇 所	システム名 (ライン名)	〇〇																									
	設置床	〇〇																									
	溢水防護上の区画番号	〇〇																									
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	〇〇																									
注記	<p>1) データ収集対象は、第7回申請に記載した第2.3.1-1表～第2.3.1-5表、第8回申請に記載した第2.3.1-1表～第2.3.1-17表及び第2.3.1-1表に示すもののうち、表示機能 (指示・警報) である。</p>																										
仕 様	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>放射線管理用データ収集装置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主要な収集データ</td> <td>1. 放射線管理関係</td> </tr> </tbody> </table>	名 称	放射線管理用データ収集装置	主要な収集データ	1. 放射線管理関係																						
	名 称	放射線管理用データ収集装置																									
主要な収集データ	1. 放射線管理関係																										
注記	<p>1) データ収集対象は、第6回申請、第8回申請及び第9回申請に記載する屋内モニタリング設備のガンマ線エリアモニタ、中性子線エリアモニタ、アルファ線ガスモニタ及びベータ線ガスモニタの仕様表並びに第9回申請に記載する屋外モニタリング設備の主排気筒ガスモニタの仕様表に示すもののうち、「設置建屋及び検出器個数」に記載されたモニタの指示及び警報状態である。</p>																										

仕様表の記載項目 (機種区分: 可搬型タンクローリ)

既設工認	仕様表項目案		発電炉工認			
対象フォーマットなし (申請設備なし)	軽油用タンクローリ		・可搬型			
	名称		変更前	変更後		
	種類	—	名 称	タンクローリ*1		
	耐震クラス	—	種 類	—		
	容量	kL/個	容 量	kL/個		
	最高使用圧力*3	kPa	最 高 使 用 圧 力 *3	kPa		
	最高使用温度*3	℃	最 高 使 用 温 度 *3	℃		
	主要寸法	胴長径	mm	胴 長 径	mm	
		胴短径	mm	胴 短 径	mm	
		胴板厚さ	mm	胴 板 厚 さ	mm	
		鏡板厚さ	mm	鏡 板 厚 さ	mm	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	
		排出口管台外径	mm	排 出 口 管 台 外 径	mm	
		排出口管台厚さ	mm	排 出 口 管 台 厚 さ	mm	
		マンホール管台外径	mm	マ ン ホ ール 管 台 外 径	mm	
		マンホール管台厚さ	mm	マ ン ホ ール 管 台 厚 さ	mm	
		マンホールふた厚さ	mm	マ ン ホ ール ふ た 厚 さ	mm	
		全長	mm	全 長	mm	
		車両全長	mm	車 両 全 長	mm	
		車両全幅	mm	車 両 全 幅	mm	
		車両高さ	mm	車 両 高 さ	mm	
		材 料	胴板	—	胴 板	—
	鏡板		—	鏡 板	—	
	マンホールふた		—	マ ン ホ ール ふ た	—	
	個数	—	個 数	—		
	取付箇所	—				

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: ポンペ)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																												
対象フォーマットなし (申請設備なし)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td>可搬型圧縮空気ポンペ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">設計条件</td> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td>—</td> <td>〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">仕様</td> <td rowspan="4">寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>—</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">様</td> <td>個数</td> <td>—</td> <td>〇 (うち予備〇)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td>保管場所: ○ E.L.○m 取付箇所: ○ E.L.○m</td> </tr> </table>	名称	—	可搬型圧縮空気ポンペ	種類	—	〇〇	設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	—	〇〇 (〇〇)	容量	L/個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	仕様	寸法	外径	mm	〇〇	高さ	mm	〇〇	胴部厚さ	mm	〇〇	底部厚さ	mm	〇〇	材料	—	〇〇	様	個数	—	〇 (うち予備〇)	取付箇所	—	保管場所: ○ E.L.○m 取付箇所: ○ E.L.○m	<p>8.2 非常用空素供給系 (2) 容器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・可搬型</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td></td> <td>非常用空素供給系 高圧空素ポンペ</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>一般縦目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/個</td> <td></td> <td>46.7以上 (46.7^{*1})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力^{*2}</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>14.7</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度^{*2}</td> <td>℃</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>232^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1370^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (5.1^{*1})</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (10.2^{*1})</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>—</td> <td></td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>—</td> <td></td> <td>10 (予備10)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>—</td> <td></td> <td>保管場所: □ EL.20.30 m 取付箇所: (10本: □ EL.20.30 m)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 公称値を示す。 *2: 重大事故等時における使用時の値を示す。</p>			変更前	変更後	名称			非常用空素供給系 高圧空素ポンペ	種類	—		一般縦目なし鋼製容器	容量	L/個		46.7以上 (46.7 ^{*1})	最高使用圧力 ^{*2}	MPa		14.7	最高使用温度 ^{*2}	℃		40	主要寸法	外径	mm	232 ^{*1}	高さ	mm	1370 ^{*1}	胴部厚さ	mm	□ (5.1 ^{*1})	底部厚さ	mm	□ (10.2 ^{*1})	材料	—		マンガン鋼	個数	—		10 (予備10)	取付箇所	—		保管場所: □ EL.20.30 m 取付箇所: (10本: □ EL.20.30 m)
名称	—	可搬型圧縮空気ポンペ																																																																																												
種類	—	〇〇																																																																																												
設計条件	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	—	〇〇 (〇〇)																																																																																											
	容量	L/個	〇〇																																																																																											
	最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																											
	最高使用温度	℃	〇〇																																																																																											
仕様	寸法	外径	mm	〇〇																																																																																										
		高さ	mm	〇〇																																																																																										
		胴部厚さ	mm	〇〇																																																																																										
		底部厚さ	mm	〇〇																																																																																										
材料	—	〇〇																																																																																												
様	個数	—	〇 (うち予備〇)																																																																																											
	取付箇所	—	保管場所: ○ E.L.○m 取付箇所: ○ E.L.○m																																																																																											
		変更前	変更後																																																																																											
名称			非常用空素供給系 高圧空素ポンペ																																																																																											
種類	—		一般縦目なし鋼製容器																																																																																											
容量	L/個		46.7以上 (46.7 ^{*1})																																																																																											
最高使用圧力 ^{*2}	MPa		14.7																																																																																											
最高使用温度 ^{*2}	℃		40																																																																																											
主要寸法	外径	mm	232 ^{*1}																																																																																											
	高さ	mm	1370 ^{*1}																																																																																											
	胴部厚さ	mm	□ (5.1 ^{*1})																																																																																											
	底部厚さ	mm	□ (10.2 ^{*1})																																																																																											
材料	—		マンガン鋼																																																																																											
個数	—		10 (予備10)																																																																																											
取付箇所	—		保管場所: □ EL.20.30 m 取付箇所: (10本: □ EL.20.30 m)																																																																																											

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分：緊急時対策建屋加圧ユニット)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認																																																																																									
<p>対象フォーマットなし (申請設備なし)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>緊急時対策建屋加圧ユニット (機器番号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td>-</td> <td>〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>m³/個</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>たて</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>〇〇</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	名称		緊急時対策建屋加圧ユニット (機器番号)	種類	-	〇〇	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇 (〇〇)	容量	m ³ /個	〇〇	最高使用圧力	MPa	〇〇	最高使用温度	℃	〇〇	主要寸法	高さ	mm	たて	mm	横	mm	主要材料	-	〇〇	個数	-	〇〇	取付箇所	系統名 (ライン名)	-	設置床	-	溢水防護上の区画番号	-	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	<p>2.3 緊急時対策所換気系 (1) 容器 (中央制御室、緊急時制御室及び緊急時対策所の加圧を目的として設置するものに限る。) の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)</p> <p>・可搬型</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">名称</td> <td>-</td> <td>緊急時対策所加圧設備 (東海、東海第二発電所共用)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>類</td> <td>-</td> <td>一般継目なし鋼製容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/個</td> <td>-</td> <td>46.7以上 (46.7^{m3})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPa</td> <td>-</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td>-</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>232^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1370^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (6.3^{*1})</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>□ (11.0^{*1})</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>クロムモリブデン鋼</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>320 (予備 80)</td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>保管場所： 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m 取付箇所： 320本 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：重大事故等時における使用時の値を示す。</p>			変更前	変更後	名称		-	緊急時対策所加圧設備 (東海、東海第二発電所共用)	種類	類	-	一般継目なし鋼製容器	容量	L/個	-	46.7以上 (46.7 ^{m3})	最高使用圧力	MPa	-	19.6	最高使用温度	℃	-	40	主要寸法	外径	mm	232 ^{*1}	高さ	mm	1370 ^{*1}	胴部厚さ	mm	□ (6.3 ^{*1})	底部厚さ	mm	□ (11.0 ^{*1})	材料	-	-	クロムモリブデン鋼	個数	-	-	320 (予備 80)	取付箇所	-	-	保管場所： 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m 取付箇所： 320本 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m
名称		緊急時対策建屋加圧ユニット (機器番号)																																																																																									
種類	-	〇〇																																																																																									
耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	-	〇〇 (〇〇)																																																																																									
容量	m ³ /個	〇〇																																																																																									
最高使用圧力	MPa	〇〇																																																																																									
最高使用温度	℃	〇〇																																																																																									
主要寸法	高さ	mm																																																																																									
	たて	mm																																																																																									
	横	mm																																																																																									
主要材料	-	〇〇																																																																																									
個数	-	〇〇																																																																																									
取付箇所	系統名 (ライン名)	-																																																																																									
	設置床	-																																																																																									
	溢水防護上の区画番号	-																																																																																									
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-																																																																																									
		変更前	変更後																																																																																								
名称		-	緊急時対策所加圧設備 (東海、東海第二発電所共用)																																																																																								
種類	類	-	一般継目なし鋼製容器																																																																																								
容量	L/個	-	46.7以上 (46.7 ^{m3})																																																																																								
最高使用圧力	MPa	-	19.6																																																																																								
最高使用温度	℃	-	40																																																																																								
主要寸法	外径	mm	232 ^{*1}																																																																																								
	高さ	mm	1370 ^{*1}																																																																																								
	胴部厚さ	mm	□ (6.3 ^{*1})																																																																																								
	底部厚さ	mm	□ (11.0 ^{*1})																																																																																								
材料	-	-	クロムモリブデン鋼																																																																																								
個数	-	-	320 (予備 80)																																																																																								
取付箇所	-	-	保管場所： 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m 取付箇所： 320本 緊急時対策所建屋 EL. 23.30 m																																																																																								

表中の「□□」はマスキング対象

仕様表の記載項目 (機種区分: フェンス)

既設工認	仕様表項目案	発電炉工認										
<p>対象フォーマットなし (申請設備なし)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1059 352 1308 394">名称</th> <th data-bbox="1308 352 1866 394">可搬型汚濁水拡散防止フェンス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1059 394 1308 464">耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)</td> <td data-bbox="1308 394 1866 464">〇〇 (〇〇)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1059 464 1308 506">材質</td> <td data-bbox="1308 464 1866 506">〇〇</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1059 506 1308 548">個数</td> <td data-bbox="1308 506 1866 548">〇〇</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1059 548 1308 590">取付箇所</td> <td data-bbox="1308 548 1866 590">〇〇</td> </tr> </tbody> </table>	名称	可搬型汚濁水拡散防止フェンス	耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)	材質	〇〇	個数	〇〇	取付箇所	〇〇	<p>(1) 基本設計方針 第2章 個別項目</p> <p>2. 燃料貯蔵設備 (省略) 燃料体等の貯蔵設備は、燃料取扱者以外の者がみだりに立ち入らないよう、フェンス等により立入を制限できる設計とする。</p> <p>2.3 外部からの衝撃による損傷の防止 2.3.3 設計方針 (1) 自然現象 (a) 影響評価における荷重の設定 (省略) また、当社敷地近傍の隣接事業所から、設計飛来物である鋼製材の運動エネルギー又は貫通力を上回る飛来物が想定される場合は、隣接事業所との合意文書に基づきフェンス等の設置により飛来物となるものを配置できない設計とすること若しくは当該飛来物の衝撃荷重を考慮した設計荷重に対し、外部事象防護対象施設及び外部事象防護対象施設を内包する区画の構造健全性を確保する設計とすること若しくは当該飛来物による外部事象防護対象施設の損傷を考慮して、代替設備により必要な機能を確保すること若しくは安全上支障のない期間で修復等の対応を行うこと又はそれらを適切に組み合わせること、その安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>5.8 電気設備の設計条件 5.8.1 設計基準対象施設及び重大事故等対処施設 (省略) 電気設備のうち高圧又は特別高圧の電気機械器具及び母線等は、取扱者以外の者が容易に立ち入るおそれがないよう発電所にフェンス等を設ける設計とする。</p>
名称	可搬型汚濁水拡散防止フェンス											
耐震クラス (重大事故等対処設備の分類)	〇〇 (〇〇)											
材質	〇〇											
個数	〇〇											
取付箇所	〇〇											

仕様表の記載項目 (機種区分: 貯蔵ピット)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認																																																																																																																							
(ガラス固化体貯蔵建屋)				(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)				該当する設備なし																																																																																																																							
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>二</td><td colspan="2">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>種類</td><td>二</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td rowspan="2">設計条件</td><td rowspan="2">耐震クラス</td><td>収納管</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">仕様</td><td rowspan="2">容量</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">構成</td><td>収納管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="4">主要寸法</td><td rowspan="2">収納管</td><td>内径 (mm)</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>厚さ (mm)</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">通風管</td><td>長さ (mm)</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>内径 (mm)</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>収納管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>基数</td><td>二</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>添付図 (配置図, 構造図)</td><td></td><td></td><td></td><td>〇〇</td></tr> </table>				名称	二	貯蔵ピット						種類	二	間接自然空冷貯蔵方式		設計条件	耐震クラス	収納管	二	〇〇	通風管	二	〇〇	仕様	容量	二	二	〇〇	二	二	〇〇	構成	収納管	二	二	〇〇	通風管	二	二	〇〇	主要寸法	収納管	内径 (mm)	二	〇〇	厚さ (mm)	二	〇〇	通風管	長さ (mm)	二	〇〇	内径 (mm)	二	〇〇	主要材料	収納管	二	二	〇〇	通風管	二	二	〇〇	基数	二	二	二	〇〇	添付図 (配置図, 構造図)				〇〇	<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>二</td><td colspan="2">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>種類</td><td>二</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td rowspan="2">設計条件</td><td rowspan="2">耐震クラス</td><td>収納管</td><td>二</td><td>S¹⁾</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>S¹⁾</td></tr> <tr><td rowspan="2">仕様</td><td rowspan="2">容量</td><td>二</td><td>二</td><td>収納管80本/基</td></tr> <tr><td>二</td><td>二</td><td>ガラス固化体9本/収納管1本</td></tr> <tr><td rowspan="4">主要寸法</td><td rowspan="2">収納管</td><td>内径</td><td>mm</td><td>442</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>mm</td><td>11.4</td></tr> <tr><td rowspan="2">通風管</td><td>長さ</td><td>mm</td><td>15600</td></tr> <tr><td>内径</td><td>mm</td><td>582</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>収納管</td><td>二</td><td>二</td><td>SM400A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>二</td><td>SM400A (アルミニウム溶射)</td></tr> <tr><td>基数</td><td>二</td><td>二</td><td>二</td><td>2基</td></tr> </table>				名称	二	貯蔵ピット		種類	二	間接自然空冷貯蔵方式		設計条件	耐震クラス	収納管	二	S ¹⁾	通風管	二	S ¹⁾	仕様	容量	二	二	収納管80本/基	二	二	ガラス固化体9本/収納管1本	主要寸法	収納管	内径	mm	442	厚さ	mm	11.4	通風管	長さ	mm	15600	内径	mm	582	主要材料	収納管	二	二	SM400A (アルミニウム溶射)	通風管	二	二	SM400A (アルミニウム溶射)	基数
名称	二	貯蔵ピット																																																																																																																													
種類	二	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																													
設計条件	耐震クラス	収納管	二	〇〇																																																																																																																											
		通風管	二	〇〇																																																																																																																											
仕様	容量	二	二	〇〇																																																																																																																											
		二	二	〇〇																																																																																																																											
構成	収納管	二	二	〇〇																																																																																																																											
	通風管	二	二	〇〇																																																																																																																											
主要寸法	収納管	内径 (mm)	二	〇〇																																																																																																																											
		厚さ (mm)	二	〇〇																																																																																																																											
	通風管	長さ (mm)	二	〇〇																																																																																																																											
		内径 (mm)	二	〇〇																																																																																																																											
主要材料	収納管	二	二	〇〇																																																																																																																											
	通風管	二	二	〇〇																																																																																																																											
基数	二	二	二	〇〇																																																																																																																											
添付図 (配置図, 構造図)				〇〇																																																																																																																											
名称	二	貯蔵ピット																																																																																																																													
種類	二	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																													
設計条件	耐震クラス	収納管	二	S ¹⁾																																																																																																																											
		通風管	二	S ¹⁾																																																																																																																											
仕様	容量	二	二	収納管80本/基																																																																																																																											
		二	二	ガラス固化体9本/収納管1本																																																																																																																											
主要寸法	収納管	内径	mm	442																																																																																																																											
		厚さ	mm	11.4																																																																																																																											
	通風管	長さ	mm	15600																																																																																																																											
		内径	mm	582																																																																																																																											
主要材料	収納管	二	二	SM400A (アルミニウム溶射)																																																																																																																											
	通風管	二	二	SM400A (アルミニウム溶射)																																																																																																																											
基数	二	二	二	2基																																																																																																																											
(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)				注記 1): 既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。 記載内容は、平成18年2月28日付け平成16-10-29原第1号にて認可された設工認申請書の添付書類「II-1-3 申請設備に係る耐震設計の基本方針」による。																																																																																																																											
<table border="1"> <tr><td>名称</td><td>二</td><td colspan="2">貯蔵ピット</td></tr> <tr><td>種類</td><td>二</td><td colspan="2">間接自然空冷貯蔵方式</td></tr> <tr><td>構成</td><td>二</td><td colspan="2">〇〇</td></tr> <tr><td>容量</td><td>二</td><td colspan="2">〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="4">設計条件</td><td rowspan="2">主要寸法</td><td rowspan="2">収納管</td><td>厚さ</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>長さ</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">通風管</td><td>内径</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>厚さ</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>収納管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>通風管</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td rowspan="2">主要材料</td><td>支持架構</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>断熱材</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>基数</td><td>二</td><td>二</td><td>二</td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>添付図</td><td></td><td></td><td></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>構造図</td><td></td><td></td><td></td><td>〇〇</td></tr> <tr><td>特記事項</td><td></td><td></td><td></td><td>〇〇</td></tr> </table>				名称	二	貯蔵ピット		種類	二	間接自然空冷貯蔵方式		構成	二	〇〇		容量	二	〇〇		設計条件	主要寸法	収納管	厚さ	二	〇〇	長さ	二	〇〇	通風管	内径	二	〇〇	厚さ	二	〇〇	主要材料	収納管	二	二	〇〇	通風管	二	二	〇〇	主要材料	支持架構	二	二	〇〇	断熱材	二	二	〇〇	基数	二	二	二	〇〇	添付図				〇〇	構造図				〇〇	特記事項				〇〇																																																						
名称	二	貯蔵ピット																																																																																																																													
種類	二	間接自然空冷貯蔵方式																																																																																																																													
構成	二	〇〇																																																																																																																													
容量	二	〇〇																																																																																																																													
設計条件	主要寸法	収納管	厚さ	二	〇〇																																																																																																																										
			長さ	二	〇〇																																																																																																																										
	通風管	内径	二	〇〇																																																																																																																											
		厚さ	二	〇〇																																																																																																																											
主要材料	収納管	二	二	〇〇																																																																																																																											
	通風管	二	二	〇〇																																																																																																																											
主要材料	支持架構	二	二	〇〇																																																																																																																											
	断熱材	二	二	〇〇																																																																																																																											
基数	二	二	二	〇〇																																																																																																																											
添付図				〇〇																																																																																																																											
構造図				〇〇																																																																																																																											
特記事項				〇〇																																																																																																																											

仕様表の記載項目 (機種区分：貯蔵建屋床面走行クレーンのしゃへい容器)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認		
(ガラス固化体貯蔵建屋)								該当する設備なし		
名称		二	貯蔵建屋床面走行クレーン							
種類		二	〇〇		変更前		変更後			
設計条件		耐震クラス		二	〇〇		貯蔵建屋床面走行クレーンのしゃへい容器			
仕様	クレーン	容量 (定格荷重)		t	〇〇		しゃへい容器			
		台数		二	〇〇		設計条件			
	しゃへい体厚さ	主要寸法	内径		mm	〇〇		耐震クラス		
			頂部	鉄部	mm	〇〇		二		
		ポリエチレン部		mm	〇〇		S			
		胴部	鉄部	mm	〇〇		内径			
			ポリエチレン部	mm	〇〇		mm			
		全高		mm	〇〇		1512		変更なし	
	基数		二	〇〇		鉄部		mm		
	添付図 (配置図, 構造図)				〇〇		ポリエチレン部		mm	
						全高		mm		
						基数		二		
						1				
(ガラス固化体貯蔵建屋B棟)										
名称		貯蔵建屋床面走行クレーン								
設計仕様	種類		〇〇							
	容量 (定格荷重)		〇〇							
	台数		〇〇							
	配置図		〇〇							
	構造図		〇〇							

仕様表の記載項目 (機種区分：北換気筒)

既設工認				仕様表項目案				発電炉工認			
名称		ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒		名称		北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) ^{1) 2)}		変更前		変更後	
種類		〇〇		種類		六角鉄塔支持形 (制震装置付き [減衰係数：□□ ³⁾]) ⁴⁾					
設計条件	耐震クラス	二	〇〇	設計条件	耐震クラス	二	C ⁵⁾				
	流体の種類	二	〇〇	仕様	主要寸法	内径 ⁶⁾	mm	1.9			変更なし
仕様	主要寸法	地上の高さ	mm			75.0					
		主要材料	二			〇〇					
主柱材	二	〇〇									
添付図 (構造図)		〇〇		個数 ⁸⁾		二	1				

名称		変更前		変更後	
名称		主排気筒			
種類		二	鉄塔支持型鋼製 (制震装置付き [減衰係数：□□ ^{*1)})		
主要寸法	内径 ^{*2)}	mm	4500 ^{*3, *4)}	変更なし	
	地上の高さ	mm	140 ^{*4)}		
材料		二	SS400		
個数		二	1		

注記 注1：オイルダンパの減衰係数を示す。
注2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「筒身内径」と記載。
注3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4.5 m」と記載
注4：公称値を示す。

注記 1)：北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) の支持構造物は、再処理施設と共用する。
2)：記載の適正化を行う。既設工認には「ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒」と記載。
3)：オイルダンパの減衰係数を示す。
4)：記載の適正化を行う。既設工認には「六角鉄塔支持形」と記載。
5)：支持鉄塔及び基礎は、検討用地震動 Sc で間接支持構造物としての支持機能が維持されていることの確認を行う。なお、北換気筒 (ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒) は、基準地震動 Ss にて安全上重要な施設に波及的影響を与えないように設計する。
6)：記載の適正化を行う。既設工認には「出口内径」と記載。
7)：記載の適正化を行う。既設工認には「地上の高さ」と記載。
8)：既設工認の仕様表に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

※：表中の「□□」は、マスキング対象